第1-3期の活動計画の達成状況

重点分野1:大学拡充計画の推進

【基本方針:5】

医療・福祉の総合大学化の完成と改組

【基本方針:6】

新学部や附属病院の進展を検討

【中期計画】2021年度-2026年度

- 1. 医療・福祉の総合大学化の完成
- 2. 大学の発展と更なる進歩を目指す
- 3. 附属病院の健全運営の取組と新たな分野への発展の取組
- 4. 新学科等増設に伴う施設整備計画の検討及び実行
- 5. 計画的な施設整備による安全安心の環境確保

責任者:鈴木秀幸(法人事務局長)

分担者: 辻 紀子 (企画広報課長)、辻井悦生(管財課長)、向井正治 (医療福祉事業管理室)、

栗原通(桜の森病院事務長)

事務局:企画広報課

	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
中期計画 1.						
中期計画 2.						
中期計画 3.	-					
中期計画 4.	-					-
中期計画 5.						

2023年度活動計画

対応する中期計画項目	活動計画内容
1. 医療・福祉の総合大学化の完成	①医療・福祉の総合大学として、学部、学科、専攻の更なる充実を図り、社会のニーズに適応した学部学科等の新設、再編について検討、推進する。 ◆他の医療系大学の学部、学科組織の動向、社会のニーズ等を把握し、適応した学部、学科等の新設、再編に即時対応できるよう体制を整える。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)上記達成状況の具体的内容 2023 年 4 月、保健衛生学部医療栄養学科管理栄養学専攻と臨床検査学専攻を保健衛生学部医療栄養学科、保健衛生学部臨床検査学科として改組した。今後も引き続き、社会のニーズに適応した学部学科等の新設、再編について検討を重ねていく。
2. 大学の発展と更なる進歩を 目指す	①医療・福祉以外の分野の学部創設の可能性について検討する。 医療・福祉の総合大学として、大学がさらに発展していくよう に健康を切り口とし、医療・福祉以外の分野の学部設立の可能 性を検討する。 ■達成(100%)(継続)□ほぼ達成(実行中・80%)□遅れ有(50%)□大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

医療・福祉以外の分野の学部、学科、専攻の創設の可能性について、他大学の動向や関係法令を調査し検討を重ねた。今後も継続して検討を行う。

3. 附属病院の健全運営の取組 と新たな分野への発展の取 組

①桜の森病院の IS09001 認証の継続

- ◆IS09001 認証の維持。
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

9月29日に審査を受審し10月26日付で認証維持が決定した。

- ②主要病院との関係強化
 - ◆県内主要病院への定期訪問(半期 1 回)により情報発信・情報 収集に努め関係強化を図る。

□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

定期訪問は未実施だが、要望や改善点などの聞き取りを電話や メールで定期的に行っている。また、鈴鹿中央総合病院との連携 のため院長がカンファレンスに出席するとともに、鈴鹿回生病院 に院長等による訪問、新規開設ナーシングホームへの見学、院長 が在宅登録医会(月1回)に出席等を行った。

- ③外部研修会の実施
 - ◆一般市民を対象に緩和ケアにまつわる情報提供を行うため市 民公開講座を開催する。(年1回)
 - ◆連携医療機関医師等に対しての緩和ケア病棟入院料施設基準 に準拠した緩和ケア研修を実施する。(年1回)
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

市民公開講座を9月25日に実施した。(参加者14人) また、緩和ケア研修会を7月21日に開催した。(参加者10人)

- ④学部との連携
 - ◆学部教員の医療資格者(管理栄養士、理学療法士、臨床心理士、臨床工学技士、鍼灸師等)との連携により、患者への医療サービスの充実を図る。
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

管理栄養士の定期的なカンファレンス参加、理学療法士による 定期的なリハビリテーション、鍼灸師による鍼灸治療、臨床心理 士によるカンファレンス、カウンセリング等を継続し患者への医 療サービスの充実を継続することができた。

⑤訪問看護ステーションの事業規模を拡大する。

□達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

訪問看護ステーションを病院組織の一部に改編、また管理者退職に伴い新たな管理者を選定し、今後病院との連携を強化して事業拡大案を検討する。

- ⑥新たな分野への発展の具体方策の検討
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

2023年10月1日より院長による訪問診療を開始し、7名17件の訪問診療を実施した。今後は、1ヶ月に3名の訪問診療実施を目標に継

続予定である。

⑦国・県の地域医療構想推進支援策の研究

□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

概ね順調に進んでいる。

- 4. 新学科等増設に伴う施設整備計画の検討及び実行
- ①新学科増設に伴う必要スペース及び施設改修検討
 - ◆既存スペースでの導入検討(令和5年度実施)
 - ◆新増築での導入検討(令和5年度以降)
- ■達成(100%)(継続) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

(新学科増設以の検討)

- ・白子キャンパス内ディサービス導入の検討及び導入工事の実施(7/10~9/30)
- ・白子キャンパス新体育館建設に向けて検討(11 上~)
- 5. 計画的な施設整備による安全安心の環境確保
- ①中期施設整備計画からの老朽化施設整備
 - ◆安全性、重要性、緊急性を考慮した老朽化施設の効率的な施 設整備の実施

(令和5年度実施の外壁、防水設備の改修)

千代崎:屋上防水外壁改修(1件)、トイレ改修(1件)

白 子:トイレ改修(1件)

(中長期整備計画により順次実施)

- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容
- ・千代崎:JART本館屋上防水整備の実施(10/1~12/31)
- ・白 子:食堂棟女子トイレ整備の実施(9/12~10/30)
- ②法令改正等への遵守(耐震、防災等)
 - ◆現行法令に乗ったエレベーターの計画的更改

(令和6年度以降)

千代崎: エレベーター更改(2基)

◆更なるバリアフリー化の検討

(令和5年度実施)

千代崎、白子バリアフリー箇所の再調査

(令和6年度以降実施に向けた検討)

白子 : 講堂段差バリアフリー化

◆BCP を考慮した防災施設の検討

(令和5年度~6年度構築に向けた検討)

千代崎:災害対策室整備

- □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容
 - ・千代崎:SUMS 農園へのスロープの設置(8/1~8/21)
- ・千代崎:災害対策室屋上防水整備の実施((10/1~11/30)
- ③地球環境を考慮した施策整備の実施
 - ◆照明 (LED 化)、高効率空調設備への更改によるエネルキー削減 (令和 5 年度実施)
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容
- •東洋医学研究所高効率空調機へ更改(2/28~8/31)
- ・千代崎講義室 3107 室のLED化(7/29~9/3)
- ・千代崎図書館高効率空調機へ更改予定(12 中~3 下)
- · 白子外灯LED化予定(12 上~2 中)

- ·学生寮、教職員寮共用部LED化(6/19~7/31)
- ·白子 3 号館廊下LED化予定(12 下~2 中)
- ④魅力的な学習環境の構築
 - ◆ICT を考慮した講義室の整備

(令和5年度実施)

千代崎:講義室整備(2室)

■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

千代崎講義室(3107、3207)整備の実施(7/29~9/3)

- ⑤分散している事務局の整備
 - ◆分散している各課をキャンパスごとに可能な限り一か所に 集めて、事務の効率化を図り、学生等の対応を充実させる。
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

千代崎及び白子事務室整備(移転等)の実施(7/1~10/31)

第1-3期の活動計画の達成状況

重点分野2:大学広報の強化と入学者受け入れの改善

【基本方針:5】

医療・福祉の総合大学化の完成と改組

【基本方針:6】

新学部や附属病院の進展を検討

【中期計画】2021年度-2026年度

- 1. 広報活動の強化および大学ブランド力を向上させる情報発信
- 2. 本学の強みや特色・教育・研究・社会貢献についてのパブリシティを高めるため、報道機関との連携強化
- 3. 学生募集体制の強化と選抜制度の見直し(全学部・全学科の定員充足及び適正化)
- 4. ディプロマを明確にした広報活動の展開
- 5. 高大接続を意識した社会貢献活動の推進

責任者: 森下芳孝(学生・社会貢献担当副学長)

分担者:小山尚樹(入学課長)、辻紀子(企画広報課長)

事務局:入学課

	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
中期計画 1.						-
中期計画 2.						-
中期計画 3.						•
中期計画 4.						•
中期計画 5.	-					-

2023年度活動計画

対応する中期計画項目 活動計画内容 ①広報内容について、各組織(学部学科)や事務局との相互連携 1. 広報活動の強化および 大 学ブランド力を向上させる を図り、教育、研究、学生活動、地域貢献などの情報収集と共 有を行う。また、入学課と連携し、大学広報と入試広報の相乗 情報発信 効果を生み出していく。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 新着情報の発信や更新、載せ替えなど、日頃から他部署と情報 共有し連携を図っている。 また入学課と協同して「受験生応援サイト」のリニューアル検 討および制作、「大学案内 2025」の作成に取り組んだ。「受験生応 援サイト」については、11月上旬から着手し、2024年5月24日 に公開した。 ②大学の取り組み、教育や研究の成果、社会貢献活動などの内容 を適切な媒体へ積極的に発信する。 (1)大学ホームページの充実化を図る ・大学ホームページの管理運営、見直し改善

- ・新着情報発信への迅速な対応
- ・What's newの情報更新 (随時)
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

大学や学部学科の取り組みについては、多職種連携教育の取り組み・学会発表・大学祭・市民公開講座の実施・学官連携の取り組み・共同開発などをホームページにて取り上げた。またボランティア活動などの課外活動については、ホームページのWhat's Newや「SUMS News」で随時発信している。

研究については、研究振興課と社会連携研究センターと協同し、 当該サイトで公開している。また、研究の成果については、同課 と同センターより情報提供を受け、今後も大学ホームページの What's New や「SUMS News」でも発信していく。

「受験生応援サイト」については、高校生や受験生目線を意識したデザインの見直しを行い、ユーザーにとって使いやすいサイトにリニューアルをした。また、強化指定クラブ女子バスケットボール部の発足に伴い、新サイトの立ち上げに向け制作を進めている。

- (2)公式 SNS の運用を強化する
 - ・SNS の特性を活かしたコンテンツの検討と実施 (SNS 投稿目標値:前年度比+10%以上)
 - ・フォロワーを増やす方法の検討
 - ・本学 SNS 公式アカウントに関する運用規程等を作成し、 各学科での SNS 運用が開始できるようにする。
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

「公式 SNS の運用]

公式 Instagram では、学生の活動についての投稿を意識し、キャンパスライフをイメージできるような内容を投稿している。高校生や受験生の関心が高い「クラブ・サークル」については在学生からの投稿を集め、在学生目線での紹介に注力している。コンスタントに投稿し、目標値を達成している。

Instagram 投稿件数:82件(前年度比+41件、目標比+37件)

「学内 SNS の運用]

各学科にて SNS が運用できる仕組みを 6 月に構築し、各学科で SNS を開設し運用が開始された。各学科において、新着情報やリアルな活動をタイムリーに発信している。

Instagram…10、Facebook…8、X…2、LINE…1 ※2024年3月31日現在

- (3)紙媒体、動画、交通広告、新聞、メディア広告などを利用した情報発信をする。
 - ・「SUMS News」の発行(年4回発行)
 - ・交通広告の利用
 - ・新聞やメディア広告の有効的な利用
 - ・大学紹介動画について内容の修正や追加の検討
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

新聞の記事体広告には、朝日新聞の教育企画と中部経済新聞の産学官連携特集へ掲載し、本学の取り組みや特長について広い読者層に向けての広報を行った。冊子版については、オープンキャンパスや各高校などで配付している。また2023年4月から、中部経済新聞の連載企画「オープンカレッジ」へ本学の教員のコラムを定期的に寄稿しており、2023年度の掲載は13件である。一般紙とは異なる読者層に向けて広報を行っている。

他にも「SUMS News」を年4回発行し、大学の取り組みや学生の活動などを紹介している。

また、大学祭や市民公開講座など学内イベントに関しては、マスメディアへの告知掲載や地域の方々への広報にも注力し、来場者や参加者の促進を行った。

- ③大学ポートレートへの継続参画を行う。
 - ・大学の教育情報に関する情報公開の充実を図る
 - ・一斉更新(2023年7月)、以降新情報を随時更新
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

大学ポートレートは毎年7月に更新作業をし、最新の情報公開 を行っている。7月以降も、随時新しい情報へと更新を行っている。

2. 本学の強みや特色・教育・研究・社会貢献についてのパブリシティを高めるため、報道機関との連携強化

①パブリシティ機会の獲得に有効な情報発信に注力し、新聞・テレビ・ラジオなどマスメディアを利用したプレスリリースやプレス向けイベントなど広報活動を積極的に行う。

(プレスリリース目標値:前年度比+10%以上)

■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

マスメディア(新聞、テレビ、ラジオ)を利用した広告展開や、 県内報道機関への本学の教育・研究・社会貢献活動などに関する 情報発信を随時行っている。広報内容ごとに効果的な媒体を見極 め大学PRへと繋げた。

マスメディアに対しては、高大連携や企業との共同開発や取り組みをはじめ、ボランティアやサークル活動など、前向きに取り組む学生の姿や声を発信した。また大学の取組みやイベント、市民公開講座の実施や学官連携の取り組みなど、対外的な話題についても発信し市民の参加を募った。取材依頼のみならず、地域の方の参加を募るためのマスメディアを利用した告知についても強化している。

- プレスリリース:計22件(前年度比+1件、目標比±0)
- マスメディア掲載状況:計89件

内訳:テレビ・ラジオ (34件)、新聞 (39件)、広報誌等 (16件)

・新聞広告/マスメディア協賛:計17件

内訳: テレビ・ラジオ (8件)、新聞 (8件)、その他 (1件) ※2024年3月31日現在

②マスコミとの信頼関係を構築し、ネットワークを広げる。

■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

今後も県内報道機関とのコミュニケーションを大切にし、信頼 関係の構築やマスメディアの興味を促す情報提供と、ニュースリ リースのタイミングにも留意していく。

3. 学生募集体制の強化と選抜 制度の見直し(全学部・全学 科の定員充足及び適正化)

- ①2023 年度定員未充足学科(専攻)に重点を置いた広報活動を強化する。そのため、早期の受験生との接触機会を増やすことを狙いとし、オープンキャンパス開催を増やす。
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

オープンキャンパスを 5 月及び 9 月の 2 回を追加開催した。結果、総参加者数(本年度 2815 名、昨年度 2315 名)は 20%増加した。

- ②早期入学者確保をめざし、総合型選抜のしくみの見直し (ZOOM を利用した事前相談及び、12 月以降の選抜試験実施を追加)
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)

上記達成状況の具体的内容

全学部・全学科において総合型選抜を拡大導入した。また、選抜試験回数も1回増やした。また、事前相談については遠方の受験生への配慮を目的にZoom利用を導入し、12名が利用した。結果、受験者数は前年52名から150名と大幅に増加した。

- ③早期入学者確保をめざし、学校推薦型選抜における指定校制入 学者の増加を図るため、推薦基準等の大幅見直しを図る(対象 校の拡大、出願評定基準の引き下げ、その他の出願条件の大幅 な緩和)
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

指定校制枠推薦基準の見直しを大胆に進めたが、同枠での志願者数は前年同数(199名)であった。しかしながら、今年度、東海地区の多くの大学が同枠での志願者を大幅に減らしている状況と総合型選抜の全学部・全学科での新規導入の影響を鑑みれば十分効果があったと思われる。

- ④双方向型の受験情報発信(一方的な発信ではなく、対話・相談型)をこれまで以上に推し進める。
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

Eメールを利用した「メールで入試相談」をホームページ上に開設しており、昨年以上に問い合わせ件数が伸びており、高校生には身近な相談ツールとして定着している。

- ⑤対象を高校生(特に高1・2生)にしぼった学科別訪問 PR 動画を作成し、定期的(5月以降毎月1学科)に配信する。(動画は、YouTube など動画配信サイトを活用し、簡易かつ自由に視聴できる環境を用意する)
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

学科紹介 PR 動画の発信は順調に進んでおり、6 月末で、全学部全学科の配信を完了する予定である。また、主に高校生の反応が良好で「分かりやすい」「学科の雰囲気が感じられた」などの感想を得られている。

4. ディプロマを明確にした広報活動の展開

①ディプロマから想定される各学科が入学前に求める具体的能力 (高校での履修内容・レベル)を明確化する(必要とされる知 識をより具体的に明示する)

また、すでに全学科共通で入学前教育において不足する学力の 補填と意識付けを行っているが、今後、学校推薦型選抜及び総 合型選抜での入学者の比率が高まることを想定し、各学科独自 のプログラムの導入(対面式)を推進する。

□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

高校での履修内容で必要とされる科目・レベルの開示及び周知はほぼ完了している。総合型選抜及び学校推薦型選抜において入学が確定している高校生に対しては「入学前教育プログラム(進研アド)」の履修を強く推奨している。また、薬学部においては、入学予定者を対象に独自に事前オリエンテーション(2月実施)を実施した。

5. 高大接続を意識した社会貢

①高大連携協定校との定期的な協議を行うと同時に、県内高校と

献活動の推進

これまで以上に連携強化を進める。

■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

4月以降、三重県の私立高校2校(セントヨゼフ女子学園高校・ 皇學館高校)と連携協定を調印し、これまで以上に相互理解を深 めていくことが確認された。また、すでに協定が結ばれている高 校とは、実務レベルで頻繁にミーティング等を実施している。

- ②各高校で導入されている「学問探求活動」「キャリア教育」への 医療系大学としてのサポートを積極的に行い、本学の教育内容 への理解を促進する。(在学実績校からの依頼は原則、全て対応 することを目標とする)
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

新型コロナの収束にともない、県内外の高校から対面でのガイダンス(出前講義等含む)の依頼が多数届いており、今年度は前年の2倍以上の要請に対応している。(前年38件から本年81件)

- ③県内高校生を対象とした 2 つのイベント (科学オリンピック・みえ探求フォーラム) の本学での共催・後援をこれまで以上に密にし、意識の高い高校生(高校教員)の本学に対する認知・理解を深める。(イベントへの本学教員・学生のサポート参加を進める)
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

科学オリンピック(10月22日)は、本学千代崎キャンパスにて 県内の普通科進学校15校の参加により無事開催された。

第1-3期の活動計画の達成状況

重点分野3:教育内容の充実

【基本方針:1】

面倒見の良い、魅力ある大学

【中期計画】2021年度-2026年度

- 1. 修業年限内に全員卒業、国家試験や資格試験の全員合格に向けた「SUMS 方式学修支援方法(トコトンできるまで教育)」の樹立及び遂行とその検証
- 2. 数理・データサイエンス(統計学、数学、コンピュータサイエンス、人工知能)など今後の 社会に必要とされる数理的思考やデータ分析・活用力を備えた人材を育成するカリキュラム の全学的編成とそれらを展開する教育体制の確立
- 3. 学修者の能動的な修学を支えるために、学修者自身が自学自習や就職活動に学修支援システムを役立てる仕組みの構築
- 4. 医療人底力教育と多職種連携教育の拡充・発展のための全学的な視点に立つ学科・施設横断型カリキュラムの再構築とその実践

責任者:教務·教育改革担当副学長

分担者: 福田八寿絵 (医療人底力教育センター長)、田口博明 (FD 推進委員長)、松原奈未 (教務課長)

事務局:教務課

	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
中期計画 1.	SUMS 方式学修支援		SUMS 方式学修支援方	SUMS 方式学修支援方法の遂行とその検証		
	方法の樹立					
中期計画 2.	数理・データサイエン		数理・データサイエンス			
	スに関する人材育成カ		る教育体制の確立			
	リキュラムを全学的に 編成					
中期計画 3.	学修支援システムの拡充	► と学修成果の可視化	学修者自身が自学自習る	や就職活動に学修支援	システムを役立てる	
			仕組みの構築			
中期計画 4.	- 新設学科及び大学附属核	4の森病院を加えた横峰	► 新的カリキュラムの作			
	成			新教育システムの	再構築とその実践	

2023 年度活動計画

1.修業年限内に全員 卒業、国家試験や資格 試験の全員合格に向け た「SUMS 方式学修支 援方法(トコトンでき るまで教育)」の樹立及 び遂行とその検証

対応する中期計画項目

活動計画内容

教育改革委員会、教育質保証委員会、教務委員会、FD 推進委員会の連携による学修者本位の教育の改善と各学科の教育の質向上を図る「SUMS 方式学修支援方法(トコトンできるまで教育)」の遂行

- ① 本学教育の基本的方向性と具体的施策の立案とその実施
 - ◆教育改革委員会に加えて各学科及び全学共通分野の教育質保証委員会と連携し、学生の学力を担保しつつ、留年・休学・退学する学生を最大限に少なくする「SUMS 方式学修支援方法(トコトンできるまで教育)」の遂行に努める。

□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

教育改革委員会は、各学科の教育質保証委員会と連携し、修業年

限内の進級率及び卒業率の向上のための面倒見の良い教育を目指し、特別教育を構築し、教務委員会はその実施を推進した。各学科・ 専攻の教育質保証委員会から成績が未確定である学生についての報 告書を基に次年度改善目標・計画書が提出され、教育改革委員会で 審議した。

留年率は、2017年度:5.3%、2018年度:4.5%、2019年度:3.4%、2020年度:2.9%、2021年度:3.4%、2022年度:4.3%と推移してきた。2023年度においては、6.3%となり、新型コロナウイルス感染症が流行する前の状況に戻りつつある。

退学率は、2017 年度: 3.03%、2018 年度: 3.52%、2019 年度: 2.24%、2020 年度: 1.97%、2021 年度: 2.03%、2022 年度: 2.70%と推移してきた。2023 年度においては、2.70%で、昨年度と同様であった。

留年率がやや上昇傾向にあるため、「トコトンできるまで教育」について見直しを図り、習熟度に応じた学修者本位の教育の実現に向けて、具体的な施策の立案を実施する必要がある。それを基に教育改革委員会で審議する予定である。

- ◆教務委員会は、教育改革委員会の意向を具体化し、各学科との 調整を図りながら、特別教育に関する運用を明確にする。
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

教務委員会は、「トコトンできるまで教育」を遂行するために、各学科との調整を図ることを継続している。効果として、退学率は、2017 年度:3.03%、2018 年度:3.52%、2019 年度:2.24%、2020年度:1.97%、2021年度:2.03%、2022年度:2.70%と推移してきた。少し上昇傾向にあるが、一時的なものと考えており、今後も特別教育の流れを踏まえ、引き続き修学年限内の進級率と卒業率の100%達成を目指して、教育改革委員会と連携を図る。また、「特別教育(対象者のみ)の流れフローチャート」を作成し、全学的に共有することで、特別教育の目的や運用を明確にした。

- ② FD 推進委員会による教員意識の改革と授業改善の取り組み ◆効果的な教授法の習得とともに教育や講義の質を向上させる ために、年2回以上の FD 研修会・講習会を開催する。
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

FD 推進委員会は学内外のオンライン研修会を以下のように開催し、教員の指導能力の向上を図った。また、ICT を活用した双方向型授業や、反転授業を含めた教育形態の更なる改革を推進するために、LMS 研究部会では、授業動画の作成方法等をテーマに、現時点で2回(通算17回)研究会を実施した。その研究会の資料や動画は、learningBOX にアップロードし、全教員がいつでも活用できるよう整備した。

そして、産学連携を行う learningBOX 株式会社と EdTeck がもたらす新しい教育に関する共同研究で、国際的に名誉のある IMSJapan 賞の「優秀賞」を共同で受賞した。授賞理由に"両者の密接な連携関係がうかがわれ、この点も高く評価された。"とあり、今後も引き続き連携していく。

○2023 年度 FD·SD 講演会 Zoom 開催 (参加者 314 名)

開催日時: 2023年9月1日(金)13時30分~

テーマ:多様な学生へのサポートとケア-発達障害、メンタル

ヘルスの問題のある学生への対応を理解する-

講師:高橋 知音先生

テーマ:鈴鹿医療科学大学における IR 活動

講師:桑野 泰宏先生

○LMS 研究会 Zoom 開催

第 16 回 2023 年 6 月 22 日 (木) 9 時 30 分~ (参加者 48 名) 第 17 回 2023 年 7 月 27 日 (木) 9 時 30 分~ (参加者 76 名)

◆教育改善に役立てるために、学生参画型の教育改革委員会・FD 推進委員会を年1回以上開催する。

■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

2023 年度学生参画教育改革委員会・FD 推進委員会合同会議を以下の日程で開催した。

開催日時: 2023 年 8 月 3 日 (木) 9 時 30 分~ Zoom 開催 出席者: 学生 13 名、教職員 21 名

議題:事前に行ったアンケートを基に以下の内容で議論した。

- 1. 3つのポリシー等の教育目標から見て教育が適切に行われているかについて
- 2. 学生による授業評価をどのように教員の授業評価に結び つけるかについて
- 3. 遠隔授業 (Zoom) および e-learning (learningBOX など) について
- 4. 教育に関する改善点について
- ◆本学 FD 活動を他の大学・短大等にも広報し、連携を図ることによって、授業改善の相乗効果を生み出すための教育に関わる 講演会を少なくとも年1回以上開催する。
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

FD 推進委員会、教育改革委員会、教務委員会、人事・厚生課主催の FD・SD 講演会について以下の内容で開催し、県内の高等教育機関に広報したことにより、学外から 25 名の参加者があった。

○2023 年度 FD·SD 講演会 Zoom 開催 (全参加者 314 名)

開催日時: 2023年9月1日(金)13時30分~

テーマ: 多様な学生へのサポートとケア-発達障害、メンタルへルスの問題のある学生への対応を理解する-

講師:高橋 知音先生

テーマ:鈴鹿医療科学大学における IR 活動

講師:桑野 泰宏先生

そして、今年度は、産学連携を行うlearningBOX株式会社とEdTeckがもたらす新しい教育に関する共同研究で、国際的に名誉のあるIMSJapan賞の「優秀賞」を共同で受賞した。授賞理由に"両者の密接な連携関係がうかがわれ、この点も高く評価された。"とあり、LMS研究部会では引き続き、学生ファーストの教育システムの実現のため尽力していく。

- ◆LMS (Learning Management System) 研究部会では、 learningBOX を用いた授業改善の事例等を含む研修会を年2 回以上開催する。
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

教員による learningBOX を用いた授業改善を推進するため、初め

て使用する教員向けに、基本操作を紹介し個別指導できる勉強会を 4回開催した。また授業改善の事例や授業動画作成方法を紹介する LMS 研究会を2回開催した。さらに今年度は、パキスタンのパンジャブ州技術教育・職業訓練庁と活動報告会を実施し、海外と learningBOX の活用事例を報告し合うことは初めての経験となった。

○learningBOX 及び A-Portal 少人数勉強会 対面開催

4月27日(木) learningBOX 勉強会 (参加者6名)

5月11日(木) learningBOX 勉強会 (参加者 7名)

5月18日 (木) learningBOX 勉強会 (参加者6名)

11月9日(木) A-Portal 勉強会 (参加者 29名)

○LMS 研究会 Zoom 開催

第 16 回 2023 年 6 月 22 日 (木) 9 時 30 分~ (参加者 48 名) 第 17 回 2023 年 7 月 27 日 (木) 9 時 30 分~ (参加者 76 名)

○SUMS×learning×パンジャブ州技術教育・職業訓練庁報告 全

2023年7月5日(水)13時~15時(参加者33名)

- ③ 学修支援システムの活用
 - ◆「リメディアル教育改革チーム」を立ち上げ、入学前教育及び プレイスメントテストを含むリメディアル教育の内容を見直 し、成績不振の学生用の e-learning を作成し、全学で情報共有 するなどの仕組みの構築を図る。

□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

リメディアル教育改革チームでは、2023年2月から7回会議を開催し、各学科専攻の要望を調査した結果も踏まえ作成したe-learning 教材などを積極的に活用し、学生の進捗に応じた指導(個別最適化)を教員が行う形を検討した。また、学力だけでなく、精神面に様々な問題を抱える学生に向けて多岐にわたる指導を行う際は、学科専攻だけでなく学生相談室をはじめとする様々な関係部署との情報共有や連携が非常に重要であり、リメディアル教育に関する情報共有も強化していくこととしたが、仕組みの構築に至らず、今後はこれを実現することを目指す。

◆遠隔会議システム Zoom または動画などを利用した反転授業用 教材を事前学習や事後学習に役立てるために、各学科、全学共 通分野において1科目以上の教材の作成とそれらの授業への 導入に努め、学生の授業外学修時間について、予復習全くしな い学生をなくす(0人)ことを目指す。

□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

遠隔会議システム Zoom または動画などを利用した反転授業用教材を learningBOX にアップロードし、事前学習や事後学習に役立てるために、全学科、全学共通分野において 1 科目以上の教材を作成し、授業に活用している。なお、learningBOX の活用率は 71%で、概ね反転授業として利用しているが、2023 年度調査で予習を全くしていないと回答した学生は 681 人、復習を全くしていないと回答した学生は、287 人であった。今後も引き続き反転授業の活用を促し、予復習を全くしない学生を減らすことに努める。

- ◆LMS 研究部会は、自学自習・演習の作成例など、教員のためのマニュアルを作成し、学修支援システム活用率の向上を推進する。
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)

上記達成状況の具体的内容

LMS 研究部会が、動画などを利用した自学自習・演習の作成例など教員のためのマニュアルを作成し、learningBOX にアップロードし、全教員と共有することにより、学修支援システムの活用が、いつでもどこでも参考できる環境を整えた。

2. 数理・データサイエンス(統計学、数学、コンス(統計学、数学、コンス、公司を対イエンス、人工知能)など今後の社会に必要とされる数理的思考やデータ分析・活成力を備えた人材をのを開するカリキュラムを実的編成とそれらを展開する教育体制の確立

数理・データサイエンス教育の始動に向けての教育体制の整備

- ① 数理・データサイエンス教育の全学的な体制作り
 - ◆「数理・データサイエンス(統計学、数学、コンピュータサイエンス、人工知能)」など今後の社会に必要とされる数理的思考やデータ分析・活用能力を育成する科目を全学で実施する。

■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

「数理・データサイエンス(統計学、数学、コンピュータサイエ ンス、人工知能)」など今後の社会に必要とされる数理的思考やデー タ分析・活用能力を育成する科目として、2022 年度からカリキュラ ムに「医療人底力実践Ⅲ(データサイエンス)」を全学科・専攻の必 修科目として組み入れた。learningBOX を使用して、人間の集中学 習時間 (15 分) に合わせたオリジナル動画 (YouTube 動画) を 48 本(1回分の授業に対して6本)作成し、学生が学習したいときに 何度でも学習できるオンデマンド動画配信を行った。また、動画を 十分理解しているかどうかを確認するための「理解度テスト」と 「EXCEL を使用したデータの可視化レポート」を各授業の内容に合 わせて作成し、学生の学習能力に応じた速度で学習できるように工 夫した。また Society5.0 を視野に入れ、画像診断支援システム、本 学構内で取り組んでいる装着型サイボーグ HAL などの人工知能の利 活用、SNSシステムなどの仕組み、DXの利活用などの解説を取り 入れ、医療・福祉分野ではデータサイエンスの理解が必要であるこ とを例示により説明した。またPCでもスマホでも学習できる環境 を整備し、学生一人ひとりの興味や関心を引き出すための多様な学 びの場を提供した。数理・データサイエンス教育の向上に向けた自 学自習の仕組みを構築し開講した。2023年度は、修得した学生に「修 了証」を learningBOX で発行することとし、履修者の学習意欲を持 たせる工夫をしている。

- ◆数理・データサイエンス・AI と社会とのつながりについて教えることができる教員の養成を目的とした FD 講演会を年1回実施する。
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

FD 推進委員会は、数理・データサイエンスの基礎的な知識について深く理解することをテーマとした FD 講演会を開催した。IR 推進室長から、IR の観点から、データを用いて大学に有益な知見を引き出す方法等、実例を交えた講演により、数理・データサイエンス・AI と社会とのつながりについての基礎的な知識を身につけることができた。

- ◆Society5.0 と SDGs を実現することを意識し、学生一人ひとりの興味や関心を引き出すための多様な学びの場を提供することを目的とし、数理・データサイエンス教育の向上に向けた自学自習・演習(learningBOX や動画などを使用したデジタル教材の活用)の仕組みを継続して構築し、教育の質の向上を目指す。
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)

上記達成状況の具体的内容

2022 年度から開講している「医療人底力実践Ⅲ(データサイエンス)」においては、引き続きオンデマンドで実施しているが、受講者からの声を参考に、EXCELの操作に関する画面動画と地域の実社会の最新のデータを追加し、動画を大幅に更新した。すなわち、一人で EXCEL によるデータの可視化の操作ができるように、任意の時点で一時停止、繰返し視聴により、「トコトンできるまで教育」を実践する画面動画を追加し、更に興味や関心を引き出すための内容として強化した。また、「修了証」を発行することとし、履修者の学習意欲の向上を目指している。

- ◆ChatGPTをはじめとする生成系AIの登場などで社会変革が起こる中、データサイエンスの知識を身につけることができる講座を開講し、数理・データサイエンス・AIと社会のつながりについて基礎的知識を持った教員の養成を目指す。
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

数理・データサイエンス・AIと社会のつながりについて基礎的知識を持った教職員の養成を目的とした、「データサイエンス入門講座」を開講し、69名の教職員が受講した。講座は learningBOX 上に保存された動画を視聴し、理解度テストを受験。全8回を修了した教職員には「修了証」を learningBOX で発行した。

3. 学修者の能動的な修学を支えるための学修者自身の自学自習や就職活動に学習支援システムを役立てる仕組みの構築

学修者本位の教育として、学生が「学修」する者としての責任と覚悟に気付き、能動的に学習できる体制を構築

- ① 学修支援システムの拡充
 - ◆e-learning を含めた学修支援システムを最大限に利用した自学 自習・演習などを各学科および全学共通分野の授業において一 科目以上の導入に努める。
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

自学自習・演習用の教材を各学科および全学共通分野の授業において一科目以上の導入を確認した。learningBOXについては、現在、全教員の71%が活用しているが、新規に導入した教務システムの機能も使いやすいとの意見もあり、徐々に利用が広がっている。

◆「リメディアル教育改革チーム」を立ち上げ、成績不振の学生 用の e-learning を作成し、全学で共有する。

□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

リメディアル教育改革チームで、独自の e-learning 教材を作成することは非常に時間がかかり、非効率であるとの結論に至り、市販の e-learning 教材を検討した。成績不振の学生用の e-learning 教材を選定し、まず薬学科で導入することとなった。引き続き他社教材も含めて検証し、全学で共有する方向で検討しているが未達である。

- ② IR 推進室による分析データの活用
 - ◆「リメディアル教育改革チーム」を立ち上げ、成績不振の学生 の早期同定情報及びフォローアップデータの分析を行い、学 科・専攻、学生総合支援チームと情報を共有する。

□達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

リメディアル教育改革チームで、成績不振の学生の早期同定情報及びフォローアップデータの分析を行い、過去のプレイスメント

テストおよびリメディアル教育受講者に係る分析結果についても検証し、学科・専攻と情報を共有した。学生総合支援チームでは、教育支援と並行し、学生のメンタル面にも焦点を当てた支援について議論しているが、運用には至っていないため、稼働され次第、情報を共有していく。

- ③ 学修者本位の教育として、一人ひとりの学生が「何を学び、何を身に付けたのか」を評価検証する教育質保証を実践するための学生本人による学修ポートフォリオなど可視化された学修成果の確認と、その活用の考案
 - ◆教務システムの新規導入などにより以下の修学支援の実現を 図る。
 - ・学修ポートフォリオの充実による学生自身の成長の確認
 - ・ルーブリックの活用による評価尺度の標準化と可視化
 - ・ディプロマ・ポリシーの到達度の確認
 - ・ディプロマサプリメントの交付による卒業時の学修成果の客 観的な可視化

□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

一人ひとりの学生が「何を学び、何を身につけたのか」を評価検証する教育質保証を実践するために、学修成果を正確に測定し、その成果を基に「これまでの振り返り」「これからの目標」を年度ごとに学生が入力し、この内容に担任教員がコメントを入力できる「SUMS-PO」の「学修カルテ機能」を活用する体制を構築し、運用した。本機能は、カリキュラムマップを活用し、ディプロマ・ポリシー到達に向けた進度も確認できるため、学生面談時などに活用された。後期から導入した新教務システム(A-Portal)は、学修ポートフォリオ等の学修成果の可視化について充実しており、学生自身のポータルサイトで、クラス内でのGPAによる自身の立ち位置が棒グラフで、ディプロマ・ポリシーごとの到達度がレーダーチャート図で確認することができる。た、シラバス上にルーブリックが作成できるため、評価尺度の可視化可能な環境を整備した。

また、ディプロマサプリメントを交付し、卒業時の客観的な学修成果を可視化した。

- ◆教育目標について、卒業時に学生による学習到達度の自己評価 を調査し、その結果を本学ホームページに公表し、大学として 教育成果を確認し、教育改善に活用する。
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

卒業時に学生による学習到達度の自己評価調査を 2018 年度から 実施しているが、約 90%の回答率を保っている。その結果を、本学 ホームページに公表した。また、調査結果を教育改革委員会、教務 委員会で分析し、教育改善につなげる仕組みを構築している。

- ④ 卒業後アンケート調査結果等とそれらの活用
 - ◆卒業生の就職先等の進路先による調査を施行し、調査内容及 び調査結果について公表するとともに、調査結果等を教育改善 へ反映を図る。
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

2023 年度に実施した「卒業生・就職先に対するアンケート」の調査結果について、本学ホームページへ公表予定であるが、教育改革委員会、IR 推進室、FD 推進委員会、教務委員会において、教育改善につなげる検討を行った。その一つに、就職先から学生に身につ

けて欲しいことについて「コミュニケーション能力」が昨年度に引き続き1位となったが、昨年7位から急上昇し今年度2位に入ったのが「ストレスコントロール力」であった。「コミュニケーション能力」については、就職講座にて理論的な説明に留まるのではなく、学生がすぐに使えるような実践的なものとなるような内容を計画しており、「ストレスコントロール力」に関しては、レジリエンス教育を臨床実習前教育に取り入れることを検討するなど、改善を図ることとした。

4. 医療人底力教育と多職 種連携教育の拡充・発展 のための全学的な視点 に立つ学科・施設横断型 のカリキュラムの再構 築とその実践 入学前教育、初年次教育、専門教育の連携の強化により、専門教育の土台となる知識・技能・態度を総合的に涵養する教育体制の整備 ① 医療人底力教育の再構築

- ◆実社会の課題解決に生かせる能力を養うため、医療人底力教育 に数理・データサイエンスの要素も組み入れ、専門分野横断的 な STEAM 教育の実施に努める。
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

全学科横断教育の必修科目として「医療人底力実践Ⅲ(データサイエンス)」を追加し、さらに、ICTを活用した質の高い教育を実現するために、Zoomや動画などを利用した反転授業用教材の導入を推進した。

なお、2023 年度データサイエンス授業は、オンデマンド動画をさらに 強化し、履修者の学習意欲を高めるために「修了証」を発行した。

- ◆「医療人底力教育改革チーム」を立ち上げ、「医療人の基礎知識、医療人の技能と資質、多職種連携教育」、「医療人の教養と常識」など初年次科目の選択と集中を図り、実践プログラムの見直しも検討する。
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

2025 年度実施に向けて、「医療人底力教育改革チーム」で検討し、計画通り進んでいる。初年次教育として「医療人底力実践」を必修科目として1年次に開講しているが、2年次以降に開講されている多職種連携系の科目群の多くは選択科目であるため、医療人底力実践の全学必修科目として2年次開講で進めている。科目の内容としては、チームワーク力と主体性を身につけることをテーマに、基礎ゼミ方式で開講する予定である。また、「医療人の教養と常識」で開講している科目についても、基礎教養教育部会を中心に、見直しを図り、2025 年度開講に向けて進めている。

- ◆桜の森病院、桜の森白子ホームとの協力体制に基づいた施設横 断型カリキュラムの企画し、遂行を図る。
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

「医療人底力実践Ⅱ(体験プログラム)」では、2023年7月27日(木)桜の森病院について、渡部院長より特別講義を実施した。また、桜の森白子ホームへは、「医療人底力実践Ⅳ(発展プログラム)において「桜の森白子ホーム施設体験」として、全学生に実施しており、ボランティア精神の育成や地域医療、地域福祉の理解を深める教育を計画通り遂行した。

- ② 高いレベルの学力と総合力を培うための教育
 - ◆現在実施中の事例と実践で学ぶ多職種連携教育を各学科・専攻 の専門性を生かせるような内容へと進化させ、全学科の学生が 履修可能な体制を整備することで、医療人としての総合力を養 う一貫教育の実施を図る。
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)

上記達成状況の具体的内容

4年次開講の「実践で学ぶ多職種連携」は39名の履修者があり、複数学科の学生がチームを組み、地域の病院、老健施設、訪問看護ステーション、地域包括ケアセンター等、8施設で体験し、質の高い教育を遂行できた。今後も実質的活動を推進していく。また、2023年10月21日(土)実施の学生による報告会では、その

成果を確認できた。 3年次開講の「事例で学ぶ多職種連携」は、広報リーフレットを 作成し学内で周知し、担当教員からガイダンスで勧誘を積極的に行

ったことで、履修者が 134 名と増加した。(2019 年度:45 名、2020年度:47 名、2021年度:60名、2022年度:75名、2023年度:

134名)

2年次開講の「慢性疼痛で学ぶチーム医療(実践)」は、2017年度より始まった三重大学医学部との共同授業「慢性疼痛チーム医療者養成プログラム」の授業を、2023年度では対面で実施し、終了後のアンケートでは98%の学生が、将来具体的に役立ちそうだと回答しており、多職種連携教育を推進できた。多職種連携教育を推進できた。通算159名の修了者を出しており、今後も三重大学と協力し継続する方向で進めている。

- ◆「医療人底力教育改革チーム」を立ち上げ、多職種連携教育の 拡充、2年次以降への繋ぎ方などカリキュラムを確認し、本学 独自の魅力ある教育改善策の遂行を図る。
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

「医療人底力教育改革チーム」を立ち上げ、現時点で8回の会議を重ね、医療人底力実践および多職種連携教育の教育改善策について検討している。2年次以降に開講されている多職種連携系の科目群の多くは選択科目であるため、医療人底力実践の全学必修科目として、多職種連携、チーム医療を意識した広義の医療・福祉人に求められる「主体性」と「チームワーク能力」を醸成するための科目を2年次開講で進めている。学生に対し、きめ細かな指導を行うため、基礎ゼミ方式で開講し、本学教員の専門知識を活かし、「地域貢献」や「国際交流」を目指した魅力ある授業を展開する予定である。

- ③ 資格試験を意識した入学前教育、初年次教育、専門教育システムの連携協力体制の再構築とその実践
 - ◆新入生プレイスメントテストの見直しを行い、基礎学力の不足 する学生を一層早期に発見・抽出し、各学科と連携したケアと 各学科の専門教育充実につながる初年次リメディアル教育の 実施を図る。

□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

リメディアル教育改革チームにおいて、国家試験に繋がるようなリメディアル教育となるように プレイスメントテストの実施方法を含め検討した。学生の習熟度に合わせたリメディアル教育を行うことが理想であり、学科の求めるものの違いにも配慮する必要があるため、市販の教材を含め、検討している。

- ④ 新学生支援システムの構築とその実践
 - ◆「学生総合支援改革チーム」を立ち上げ、学生総合支援センターの構築を目指す。特に成績不振の学生を中心とした修学支援、学びの相談、及び各学科との連携・情報共有体制を樹立する。

□達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 「学生総合支援改革チーム」を立ち上げ、これまで2回会議を実施した。その中で、方向性は決定したが、人的資材の準備が遅れている。

◆「学生総合支援改革チーム」は、コーチングなどの面談手法の確立、タイプ分け評価尺度の構築、面談効果の分析をした結果を、教育改革委員会で確認し、内容によっては、FD・SD 講演会で発表し、全学的な修学支援に活用する仕組みを構築する。

□達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

学生への総合支援体制の構築後に内容を検討する予定であったため、連動して遅れている。

第1-3期の活動計画の達成状況

重点分野4:学生支援の強化

【基本方針:1】

面倒見の良い、魅力ある大学

【中期計画】2021年度-2026年度

- 1. 国家試験の標準修業年限内合格率 100%を目指し、きめ細かい指導方法の確立と実施。
- 2. 就職率 100%を目指し、医療機関に加え就職先として民間企業への就職支援の充実。
- 3. 学生アンケート調査結果も踏まえ学生支援体制を強化し、面倒見の良い大学を実践する。
- 4. 学友会やクラブ活動・ボランティア活動を支援し、チームワークや自主性を育てる

責任者:森下芳孝(学生·社会貢献担当副学長)

分担者: 岩崎泰正 (健康管理センター長)、大井一弥 (国家試験対策委員会副委員長)

綾野真理(学生相談室室長)、宮崎和裕(就職・キャリア支援課長)、大畑太(学生課長)、

勝田能成(白子学生・就職課長)

事務局:学生課

	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
中期計画 1.						-
中期計画 2.						•
中期計画 3.						-
中期計画 4.						•

2023 年度活動計画

対応する中期計画項目	活動計画内容
1. 国家試験の標準修業年限内 合格率 100%を目指し、きめ 細かい指導方法の確立と実 施	①本学の教育理念である「知性と人間性を兼ね備えた医療・福祉スペシャリストの育成」を実践し、教育体制構築に向けて取り組む。目標達成に必要な行動計画の企画立案と施策実施をする。 ◆計画の達成状況については各担当教職員で構成される国家試験対策委員会で課題共有や有益な施策共有など達成状況を把握し課題解決に取り組む。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)上記達成状況の具体的内容 国家試験対策員会を開催し、情報の共有に努め、意見交換を実施している。
2. 就職率 100%を目指し、医療機関に加え就職先として 民間企業への就職支援の充実	 ①卒業後の進学・就職支援体制構築に向けて就職希望者に対しての就職率100%を目標とする。 目標達成に必要な行動計画の企画立案と支援体制を整え、各学科・専攻の就職担当教員と情報を共有しつつ相互によるサポートを実施していく。 ◆就職支援の取り組みとして、学科単位で開催する年間就職ガイダンスに加え、進路就職相談の個別対応については対面方式の

対応と WEB による遠隔オンライン方式を活用して対応していく。

■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

学科別の就職ガイダンスの開催は完了。個別相談として、臨地実習中は実習終了後、Web にて面接練習や就職相談などを実施した。

◆医療機関の他、一般企業も視野に入れ、国家資格取得をスキルとして就職対象とする業界および医療機関・企業に関して、業界説明会および企業説明会を学科単位で実施していく。

□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

学科ごとに各職種に適応した企業・団体を招き、説明会などを実施している。

- ②薬学部5年次生を対象とした学内合同企業説明会の実施 病院・薬局・製薬メーカー・官公庁など幅広い業界の法人様に 参加いただき、オンライン等を活用して情報発信を行う。
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

対象学生を4・5年次生に広げ2月17日に実施した。

- ③薬学部1~6年次生を対象とした学内個別企業説明会の実施薬 剤師が活躍できる業界を知り、目指す薬剤師に対する意識向上 に繋げることを目標とし、オンライン等を活用して企業研究の 場とする。
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

個別企業説明会を希望する法人から申し込みがあった際に実施した。

- ④看護学部1~3年次生を対象としたマナー講座の実施 低学年からマナーに対する意識付けをし、実習において実践す ることで、医療人としてのマナーを身に付ける。
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

1~3年次生対象にした講座を実施した。

⑤看護学部3年生を対象とした三重県厚生農業協同組合連合会の 病院説明会の実施。

就職ガイダンスの一環として、病院研究を目的としJA 三重厚生連に所属する病院の看護部長及び卒業生による病院説明会を実施する。三重県の病院への就職率を向上させる。

■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

12月22日に実施した。

3. 学生アンケート調査結果も 踏まえ学生支援体制を強化 し、面倒見の良い大学を実践 する

【学生課】

- ①学生から汲み上げた意見·要望を実際の学生支援に反映させて いくために、学生の満足度を経年で比較·評価できる指標を用い て、学生満足度調査を実施する。
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

学生の満足度を経年で比較・評価することを目的に、現在それらを調査するための質問内容の選定を行った。

- ②在学生アンケートを実施する。(意見・要望の集約)
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

6月8日開催の学生総会で、「大学への要望」・「設置してほしい 設備等」について、在学生を対象に対面 及び、WEBで意見聴取 を行った。

- ③卒業生アンケートを実施する。
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

本学ホームページ内に卒業生アンケートフォームを設置し実施。なお、回答率を上げるため、同窓会報でもアンケートの協力依頼を行った。

- ④学友会組織との意見交換会を実施する。
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

学生総会時に聴取した在学生からの意見を取りまとめた上で、 7月12日に学友会顧問(副学長)・学生課と学友会執行部員との懇談会を実施。

- ⑤学長と学生との意見交換会を実施する。
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

学長と学生との意見交換を12月14日、21日に実施した。

- ⑥あいさつ運動及び、通学路における交通指導の実施
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

後期、教職協働により「あいさつ運動及び、通学路における交 通指導」を実施した。

- (7)学生食堂・売店との意見交換会を実施する。
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

学友会顧問(副学長)・学生課と委託給食会社の社長・部長・料理長が意見交換を行い、在学生から聴取した学生食堂・売店への要望を伝えた上で協議を行った。

- (8)障がい学生に対応した学内環境を整備する。
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

学生からの申請に伴って障がい学生支援委員会を開催し、そこで協議された支援決定書に基づいて学内の環境整備を行った。

【健康管理センター】

- ⑨健康診断を円滑に実施し、学生の健康状態のスクリーニングを 行い、所見のある学生には保健指導や再検査の実施及び、必要 な際には医療機関を紹介し、健やかに大学生活が送れるよう支 援を行う。再検査に来ない学生には、再度、呼び出しを行い再 検査を実施する。
- □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

健康診断(4月および11月実施分)について、所見のあった学生に対して、再検査および保健指導を実施した。再検査に来てい

ない学生に対しては、再度、呼び出しを行った。しかし、来室しなかった学生もいたため、最終的に達成率は80%とした。

- ⑩全学部生を対象に UPI (精神的健康度調査) を実施し、こころに 問題を抱えていると思われる学生の早期発見及び、学生相談室 と連携して面談を行う等、精神的な面へのサポートを行う。
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

4 月および 11 月の学生健康診断時に実施した UPI (精神的健康 度調査) 結果で、こころに問題を抱えていると思われる学生を抽 出し、学生相談室へ情報提供を行った。(※その後の面談について は、学生相談室より直接、対象学生へ連絡をして面談を実施して いただいております。)

- ⑪メンタルヘルス上の悩みや問題を抱えている学生に対して、学生相談室の予約等、迅速な判断と対応を行う。
- □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

健康管理センターを利用した学生で、メンタルヘルスの悩みを 抱えている学生を発見した際、学生の同意を得た上で予約を取り、 学生相談室へ繋げた。

- ②感染症の予防及び、修学に必要な抗体検査(麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎、B型肝炎、C型肝炎)を円滑に実施する。
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

新入生健康診断(4月実施分)において、すべての新入生および 編入生を対象に、抗体検査を実施した。

- ⑬抗体検査の結果、基準値を満たさない学生には、学外実習における感染のリスクを予防するため、ワクチン接種の勧告を行う。
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

4月の抗体検査結果を基に、ワクチン接種が必要なすべての学生 に対して、6月にワクチン接種勧告を行った。

- ⑭新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、必要な学生に対 して抗原検査を実施する。
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

学科等より依頼のあった際、その都度、必要に応じて抗原検査 を実施した。

【健康管理センター・白子保健室】

- 19各々の施設が管轄する学生に対し、病気やケガなど健康上の問題点への迅速な対応、ならびに適切な処置を行う。
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

各キャンパスにおいて、病気やケガなど健康上の問題を抱えた 学生が来室した際、各学科や大学事務局とも連携し、必要に応じ て病院搬送を行う等、適切な対応を行った。

⑩入学時に提出してもらっている「健康調査票」の内容をもとに、 大学生活を送るにあたり健康面での面談が必要な学生に対し て、医師による面談を実施する。

■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

入学時に新入生に提出してもらった「健康調査票」を基に、面 談が必要な学生を抽出し、医師による面談を実施した。

【学生相談室】

- ⑩学生相談体制の向上(前年度の分析結果をもとに行う)
- ・学生の多様なニーズに対応するため、対面方式とそれ以外の方法(メール、電話、Zoom 等による遠隔の相談)を活用し、相談活動を行う。

□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

相談は対面が中心ではあるが、学外実習中、休学中、授業の時間割の都合などで対面での相談が困難な場合に、遠隔の相談を受けている。

保護者、教員へのコンサルテーションは、メールや電話を中心 に対応している

- ・相談件数の増加、相談内容の複雑化、障害学生支援対応件数の 増加等に伴う業務逼迫の状況を改善するために、相談枠の増加 を図る。
- □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

非常勤相談員だけでは対応できないケースについて、学生相談 室担当の専任教員が授業等の空きコマや学生相談室開室時間外に 臨時に対応することで不足分をある程度補うことができた。

・学生支援についての教職員からのニーズの把握に努め、連携体制の改善を教職員との連携強化を図る。

□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

来談学生の状況を見極めながら、学科教員とこまめに連携をとるよう努めている。また、教員からの電話、メール等での問い合わせにも対応している。さらに、教職員対象の学生相談室活動に対する要望を把握するために、アンケート調査の準備を進めている。

・教職員を対象に、発達障害やメンタル不調等の学生指導に役立つ情報の発信を行う。

□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

学科教員や学内関係部署との連携は徐々に増加しており、個々のケースについては、必要に応じてコンサルテーションを行い、情報を提供している。e-learning システムを活用した情報リソース作成に向けて、情報の蓄積を進めている。

【医療栄養学科】

- ⑱学生への栄養及び食生活指導による健康管理への介入
- ・健康診断の結果から栄養不良(低栄養及び過栄養等)の状態に 該当する学生への栄養相談及び指導体制の充実
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

健康診断の結果から栄養不良(痩せ及び肥満)に該当する学生

に対し、前期にサムスポを活用して、栄養相談の案内を送り、栄養相談を実施している。

・上記に該当する学生への継続的な栄養相談及び指導体制の充実 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

該当学生に対しメールを活用して、栄養相談を実施している。 該当学生からの返答が無い場合が多いため、学生の負担にならな い程度に、継続的な案内を予定していたが、後期から A-portal の 新システムとなり不慣れなため、連絡体制が遅延傾向である。今 後は慣れてくるため、この問題点は解消されると考えている。

- 4. 学友会やクラブ活動・ボラ ンティア活動を支援し、チー ムワークや自主性を育てる
- ①学生団体組織(学友会、大学祭実行委員会、クラブ・サークル運営委員会、各課外活動団体等)の継続的支援を行う。
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

必要に応じて学友会会議・クラブサークル委員会等を開催し、 各学生団体の活動支援を行った。

- ②コロナ禍における課外活動等をルール化し、参加者が安心して 取り組めるよう支援を行う。
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

体育館等施設の利用数制限・体温表提出の徹底等実施し、学生にも定着。制限ルール緩和後の現在は、本格再開に合わせたルールの指導も行い、学外・学内での活動機会が増えた状況においても、大きな怪我や事故なく、活動を行うことが出来ている。

- ③SUMS ポイント制度の周知及び、取得促進に向けた取り組みを実施する。
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

SUMS ポイントの申請は任意であるが、大学ポータルサイトを使用し SUMS ポイントの申請方法等の情報を発信することや、行事終了時に申請を積極的に促すことにより認知度が高まり、申請数が増加傾向にある。

- ④学生・教職員が積極的に社会貢献・地域貢献活動へ参加できるよう支援する。
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

毎月1回程度大学周辺の学外清掃を実施し、各学科のボランティア委員をはじめとする教員と学生及び職員が参加した。

- ⑤学生のボランティア活動への積極的参加を促す取り組みとサポートを実施する。
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

ボランティア委員会に所属する各学科のボランティア委員より 学生への参加呼び掛けを積極的に行ったほか、大学ポータルサイトを通じ、ボランティア情報の詳細を送付することで、積極的な 参加を促した。

第1-3期の活動計画の達成状況

重点分野5:教職員の育成と人材確保

【基本方針:4】

教職員の資質向上

【中期計画】2021年度-2026年度

- 1. SD研修会の実施や各種外部研修会の参加により、事務職員全体および大学執行部の教員の大学運営に必要な能力の向上を図る仕組みづくりを構築する。
- 2. 教職員評価において、教職員個々が業務遂行のための目標設定を行い、その目標を達成させるための仕組みづくりを検討する。
- 3. 他の大学等と協同で、FD/SD 研修会を定期的に開催する。

責任者:豊田学長

分担者:鈴木秀幸(法人事務局長)、村田尚久(大学事務局長)、矢田智樹(人事・厚生課長)

事務局: 人事・厚生課

	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
中期計画 1.						-
中期計画 2.						
中期計画 3.						

2023年度活動計画

1. SD研修会の実施や各種外部研修会の参加により、事務職員全体および大学執行部の教員の大学運営に必要な能力の向上を図る仕組みづくりを構築する。

対応する中期計画項目

活動計画内容

- SD 研修にかかる年次計画を策定し、教職員の資質向上に必要な研修
- を計画的に実施する。
- ○年次計画
- (1)本学または連携大学が主催する研修

研修項目	受講計画者
	数
①コンプライアンス等のテーマ別 SD 研修会(年 4 回)	200 名/1 回
②連携大学との共同 FD/SD 研修会(年 2 回)	60名/1回

(2) 本学以外の機関または団体が主催する研修等への派遣

研修項目	延べ受講計
	画者数
①階層別などにより体系的に実施される外部機関または	10 名
団体主催による集合研修	
②業務内容や職種に応じた必要な専門知識を習得するた	60 名
めのセオナー、講演会、研修などの実務研修	

(3)0JT の継続実施

経験豊富な職場の上司や先輩が、職場での実践を通じて若手職 員や後輩を計画的に指導・教育、自己啓発の勧奨に取り組み、業 務知識等を習得させ育成する。

□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

本学または連携大学が主催する研修会に、以下の通り教職員を参加

させることができた。

また、本学以外の令和5年度研修会一覧

開催日	研修内容	参加人数
令和 5	・コンプライアンス研修会	教員 144 名
年8月	村田尚久大学事務局長(公的研究費に関する	職員 18 名
	コンプライアンス推進責任者)	
	「令和 5 年度公的研究費の運営・管理に関わ	
	るコンプライアンス教育について」	
令和 5	・FD/SD 講演会	教員 226 名
年9月	高橋知音 信州大学学術研究院教育学系 教	職員 55 名
	授	
	「多様な学生へのサポートとケア」	
	桑野泰宏 鈴鹿医療科学大学医用工学部臨床	
	工学科 教授	
	「鈴鹿医療科学大学におけるIR活動」	
	奥田貴史 株式会社 NTT ファシリティーズ東	
	海支店	
	「省エネルギーの取組みについて」	
		教員 25 名
	・SD 研修会【管理職研修】	職員 26 名
	深見久美子 名古屋大学ハラスメント相談セ	
	ンター	
	「ハラスメントを知り、コミュニケーション	
	に活かす-パワー・ハラスメントの理解をさら	
	に深める-」	
		職員1名
	・高田短期大学主催 FDSD 研修会	
	風間惇希 三重大学学生総合支援機構障害学	
	習支援センター 講師	
	「大学における障害学生支援について-合理	
	的配慮の理解を中心に一」	
令和 5	・三重大学主催 FDSD 研修会	教員6名
年11月	日永龍彦 山梨大学大学院総合研究部教育学	
	域 教授	

ſ			
		「日本の大学における教員の教育業績に対す	
		る評価」	
	令和 6	・私学連携協議会みえ FD/SD 合同研修会	教員2名
	年2月	高野智久 高等教育局私学部私学行政課推進	職員 34 名
		係長	
		「私立学校法の改正について」	
	令和 6	・教職員全体研修会	教員 210 名
	年3月	倉部史記 進路づくりの講師、高大共創コー	職員 60 名
		ディネーター「持続可能な学生募集と高大接	
		続について」	

また、本学以外の機関または団体が主催する研修等への派遣については、 20の研修会等に延べ56名の教職員が参加したが、目標達成に向けて引き続き研究会等の参加案内を行っていく。

- 2. 教職員評価において、教職 員個々が業務遂行のための 目標設定を行い、その目標を 達成させるための仕組みづ くりを検討する
- ・事務職員の人事考課について、現在の評価方法について検証し、 改善を提案する。
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

2024 年度からコンサルティング会社等を活用し、時代に即した新たな人事制度の構築に向けて本格的に検討を進める。

- ・教員評価について、現在の評価方法の課題改善のために、内容 及び評価方針について検討し改善する。
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

教育研究活動委員会にて、現在の評価方法の検証を行い、課題を抽出し、課題改善について検討した。課題については次年度の評価方針に反映する。

3. 他の大学等と協同で、 FD/SD 研修会を定期的に 開催する 私学連携協議会みえ及び高等教育コンソーシアムみえの連携校と情報共有を図り、各連携校で開催される FD/SD 研修会に教職員を積極的に参加させる。

■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

表 1 のとおり、私学連携協議会みえおよび高等教育コンソーシアムみえの連携校から情報共有される FD/SD 研修会に、教職員を参加させることができた。

第1-3期の活動計画の達成状況

重点分野6:研究活動の活性化を通じた社会貢献

【基本方針:3】

本学の特色を生かした研究を通じての社会貢献

【中期計画】2021年度-2026年度

- 1. 西洋医学と東洋医学の知識と技術(代替医療)を融合した統合医療研究を推進するための研究活動への資源配分
- 2. 地域医療に貢献できる独創的な研究を進めるための研究環境の整備
- 3. 研究活動推進のための外部資金の獲得
- 4. 研究倫理の確立と厳正な運用
- 5. 産学官連携研究活動の推進

※中期計画の「学内研究の推進と研究指導者の育成」は第 1-3 期より「重点分野 11: 各学科教育の特色(医療科学研究科)」へ移動

責任者:鈴木宏冶(大学院・研究担当副学長、社会連携研究センター長)

分担者:真弓 昭(研究振興課長)

事務局:研究振興課

	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
中期計画 1.						•
中期計画 2.						-
中期計画 3.						•
中期計画 4.						-
中期計画 5.						-
中期計画 6.						-

2023 年度活動計画

対応する中期計画項目 活動計画内容 1. 西洋医学と東洋医学の知識 ①SUMS 学科横断的共同研究の推進【研実】 と技術(代替医療)を融合し ◆学部・学科横断的な共同研究への研究費助成を行う。 た統合医療研究を推進する ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) ための研究活動への資源配 上記達成状況の具体的内容 2022年10月~2023年1月に公募し、応募した3課題について 研究実施委員会及び社会連携研究センター運営委員会委員による 評価に基づき、2023年3月の運営協議会で審議し、下記の3課題 が第2回研究助成対象として採択された。 (1) 研究代表者:大井 一弥(薬学部・薬学科・教授) 研究課題:抗がん薬であるイリノテカン投与による色素沈 着発現に対する基礎と臨床の融合研究 研究期間:2023年4月~2024年3月 助成金:750 千円 研究代表者:三輪 高市(薬学部・薬学科・教授) (2)研究課題:高血糖負荷による中枢神経機能障害への影響と

その改善のためのメカニズムの解明

研究期間:2023年4月~2024年3月

助成金:750 千円

(3) 研究代表者:森 尚義(薬学部・薬学科・准教授)

研究課題:皮膚の状態がフェンタニル製剤の経皮吸収に及

ぼす影響

研究期間:2023年4月~2024年3月

助成金:500 千円

◆採択された研究課題はホームページに掲載する。

■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

前項の助成対象研究課題については、ホームページに掲載した。

- ◆学部・学科横断的共同研究支援事業の問題点を改善し、内容の 充実を図る。
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

2023年11月に第2回研究助成課題の達成状況と問題を調査した結果、特に改善すべき点は見当たらなかった。

2. 地域医療に貢献できる独創的な研究を進めるための研究環境の整備

①研究環境の整備と適切な運営・管理【研実・社セ】

◆松阪市内の異業種6社から成る医療機器分野への進出を目指す 企業間連携・共創チーム「松阪メディカルメンバーズ(MMM)」と 連携して共同研究を進めるための環境整備を図る。

□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

2023年3月にMMMによる学内展示会を開催し、約80名の教職員、学生が参加した。この実績を背景に、MMMと本学とで連携協定を締結する話で纏まりかけたが、三重県薬事工業会が本学との連携協定を締結することが先決事項となったため、現在同工業会からの回答を待っているところである。

- ◆SUZUKA 産学官交流会と連携して、医薬品・医療機器の開発に関心のある企業等との研究会設立に向けた取り組みを行う。
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

本学教員のシーズと企業・消費者のニーズをマッチングさせて、 新商品の開発を目指すことを趣旨とした鈴鹿メディカルグループ (通称「SMG」)研究会を設立した。

これまでに開催した研究会は次のとおり。

- ・第1回勉強会(7月)江南化工株式会社 ラムナン硫酸の生体機能改善作用~ビジネスへの転用と将来の 展望とは~
- ・第2回勉強会(10月)伊勢くすり本舗株式会社 鈴鹿シャクヤクの栽培から地域ブランド化を目指した商品開発 〜鈴鹿のメディカル分野の強さを活かして日本一の産地に〜
- 3. 研究活動推進のための外部 資金の獲得
- ①科研費等の競争的外部資金を獲得するための具体的方策の取り 組み【研実】
- ◆科学研究費などの外部資金の獲得増大を図るため、採択経験豊富な教員による計画書の作成方法等に関する研修会を実施する
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

2023 年 8 月 7 日、定金豊教授(薬学科)を講師とし、採択され やすい計画書の作成について講演会(オンライン)を開催した。 2024年度科研費申請件数は94件であった。

- ◆国内の研究振興財団や民間企業等からの研究費助成の公募案内 を全教員にメール等で周知し、研究費助成金を獲得する体制を 整える。
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

国内の研究振興財団や民間企業等から公募案内のあった研究助成金制度について全教員メーリングリストに送信し周知させた。

- ②ホームページで教員の研究成果や取組事例の紹介【研実、社セ】
- ◆教員の研究成果を大学ホームページで随時紹介し、研究活動に 関する広報を充実させる。
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

ホームページに以下の研究成果、取組事例等を公開した。

- ・教員の研究成果内容の紹介 (3名)
- ・研究成果に対する受賞者の紹介(2名)
- · SUMS 学科横断的研究助成対象課題 (3課題)
- ・2023年度科研費採択課題一覧(16課題)

4. 研究倫理の確立と厳正な 運用

①研究倫理に関する体制整備【研実】

- ◆最新の研究倫理に関する諸規程を随時紹介し、学内の臨床研究 倫理審査委員会と連携して研究倫理の理解向上と研究支援体制 の整備を図る。
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

2023年9月、研究倫理審査委員会規程を制定した。 同年10月、研究倫理審査委員会における迅速審査に関する内規を 制定した。ホームページも更新済。

- ②研究倫理の厳正な運用【研実】
- ◆毎年度の「研究倫理に関する研修会」の受講を推奨する。
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

三重大学臨床研究開発センターの e ラーニングサイトで研究倫理に関する研修会の資料を受講するよう推奨した。

5. 産学官連携研究活動の推進

- ①ホームページで教員の産学官連携研究活動の成果や取組事例の 紹介【社セ】
- ◆教員の研究成果を大学ホームページで随時紹介し、研究活動に 関する広報を充実させる。
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

ホームページに以下の研究成果、取組事例等を公開した。

- ・教員の研究成果内容の紹介 (3名)
- ・研究成果に対する受賞者の紹介(2名)
- · SUMS 学科横断的研究助成対象課題 (3課題)
- ・2023年度科研費採択課題一覧(16課題)
- ②外部の産学官連携活動への参加による学内の研究活動情報の積極的発信

- ◆外部機関等による産学官連携活動に積極的に参加し、学内の研究活動情報の発信に努める。【社セ】
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

2023年9月7日、みえライフイノベーションシンポジウム本学と共同研究を行っている企業(江南化工)の研究成果発表

- ◆みえメディカルバレー構想、みえ LIP 等の活動に参加し、学内 の研究成果を積極的に発信する。【社セ】
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

2023 年 11 月 7 日、本学研究担当副学長がみえメディカルバレー 企画推進会議会長として参加し、広報活動を推進した。また、み え LIP 鈴鹿関連会議に本学研究担当副学長と研究振興課長が参加 し、研究成果を発信した。

- ◆SUZUKA 産学官交流会の活動に参加し、学内の研究成果等を積極的に発信し、地域企業等との共同研究を推進する。【社セ】
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

SUZUKA 産学官交流会に、本学研究担当副学長が理事、研究振興 課長が事務局役員として、会の運営に携わった。

以下の企業との共同研究が 2018 年から継続して行われ、学術論 文として公表している。

- ・江南化工株式会社(四日市市)との共同研究 共同研究者:鈴木 宏治 教授(薬学部・薬学科)
- ◆三重大学との包括的連携協定に基づき、両校間の共同研究を推 進する。【社セ】
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

各学科の複数の教員が三重大学教員との共同研究を進めており、引き続きこれを推進していく。

- ◆鈴鹿工業高等専門学校との学術協定に基づき、医工連携研究会 を毎年開催し、両研究機関の共同研究を推進する。【社セ】
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

SUMS-NITS 医工連携研究会は毎年2回開催しており、今年度1回目は以下のとおり開催した。

・第 14 回: 2023 年 9 月 28 日 (木) 16 時 30 分~18 時 15 分 (Zoom) 神藏 貴久 鈴鹿医療科学大学・保健衛生学部・救急救命学科・ 教授

「医学と工学の協同作戦 (基盤 B への道のり)」

平井 信充 鈴鹿工業高等専門学校・生物応用化学科・教授 「水溶液中固体表面ナノスケール観察による表面制御を目指 して」

【共同研究事例】

・プラズマ放電の産業応用への共同研究

SUMS:中山 浩伸 教授/NITS:横山 春喜 教授

・交流電磁場のバイオフィルム抑制効果を利用した感染制御装 置開発のための基礎研究

SUMS: 三浦 英和 准教授/NITS: 兼松 秀行 教授

・看護理工学による看護実習の遠隔教育支援システムに関する 研究 SUMS:河尻 純平 准教授、林 暁子 助教/NITS:伊藤 明 教授

・乳児に行う新たな胸骨圧迫

SUMS: 神藏 貴久 教授/NITS: 伊藤 明 教授

- ◆鈴鹿病態薬学研究会を毎年開催し、学外研究者との交流と共同研究を推進する。【社セ】
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

鈴鹿病態薬学研究会は概ね年2回開催しており、今年度は以下 のとおり開催した。

- 第20回:2023年9月22日(金)17時~19時 白子キャンパス1606講義室(対面/Z00Mハイブリッド形式) 岡田 欣晃 准教授(大阪大学・大学院薬学研究科・臨床薬効 解析学分野)
- ◆本学の研究成果等について、企画広報課と連携して社会的メディア(新聞・テレビ・ラジオ等)を活用して情報発信に努める。 【研実、社セ】
- □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容
 - ・メディア 令和5年12月7日(木)中部経済新聞
 - 掲載内容

本学、江南化工(株)、三重大学の共同研究によるヒトエグサ・ラムナン硫酸の動脈硬化抑制効果に関する研究成果が MDPI 社の Cells 誌に掲載された。

第1-3期の活動計画

重点分野7:国際交流の推進

【基本方針:2】

留学生の確保

【中期計画】2021年度-2026年度

- 1. 留学生受入れのための体制整備
- 2. 留学生の受入れから管理全般を担当する専門部署の設置
- 3. 国際交流事業の実施
- 4. 学科単位での学生の海外体験の機会の拡充

責任者:髙木久代(国際戦略担当副学長)

分担者:永坂哲(国際交流センター長)、宮崎和裕(就職・キャリア支援課長)

事務局:就職・キャリア支援課

	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
中期計画 1.						
中期計画 2.			-			
中期計画 3.						
中期計画 4.						

2023 年度活動計画

対応する中期計画項目	活動計画内容			
1. 留学生受入れのための体制整備	①留学生受入れのための体制整備 ◆国際交流業務を担う専門部署を設置することにより留学生の受入れ体制を整える。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 国際交流センターの設置に係る規程を整備済み			
2. 留学生の受入れから管理 全般を担当する専門部署 の設置	①留学生の受入れから管理まで一元的に行う専門部署を設置する。 ◆国際交流業務を担う専門部署を設置する。 (来日当初の生活立ち上げ部分サポートを含む) □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 国際交流センターの設置場所を決定			
3. 国際交流事業の実施	①国際交流事業の展開 ◆コロナ禍において可能な交流内容を駆使しながら、更なる国際提携を広めていく。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 石家庄医学高等専門学校(中国)との覚書締結			

◆国際的視野の重要性、つまり固定概念にとらわれない柔軟な視野 (考え方)を身に付けることで、一個人の協調性の向上につな<u>げ</u>る。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

海外研修が再開され、少ないながらも参加する学生がいるということで、 それぞれの視野の拡大にはつながるものがあると考える。

4. 学科単位での学生の海外体験の機会の拡充

- ① 既に学生の海外研修を実施している鍼灸サイエンス学科、 医療健康データサイエンス学科、看護学科の3学科については 交流の継続に加え、学術的に一歩進んだ相互実益性を目指す。
- ◆コロナ禍による交流の断絶を回避しつつも、上記の学科に加え、本大学では全学部・学科へ国際交流の重要性を強調していく。海外との交流が可能な学部・学科から海外の教員を招待する、又は提携大学との遠隔手段における学生、教員の参加会議等、大学全体で国際交流を推進していく。そのために海外との交流の雰囲気、土台作りともいえる部分を強化していく。

□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

医療栄養学科、鍼灸サイエンス学科、臨床工学科、看護学科がそれ ぞれ海外研修を実施した。

- ②上記により、学生の国際交流が未実施である学科支援を推進する。
- ◆教員レベルで繋がりのある大学等を一つの切り口として、委員会で 検討し、大学間での提携を結び、活動を積極的に進めていく。
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

委員会で検討はされた。ただし提携に関しては国際交流センターが本格的に立ち上がってからと考えられる。

第1-3期の活動計画の達成状況

重点分野8:信頼性の高い事業継続可能な組織体制の改革

【基本方針:1】

面倒見の良い、魅力ある大学

【基本方針:4】

教職員の資質向上

【基本方針:7】

大地震など災害への備え

【中期計画】2021年度-2026年度

- 1. 実効性のある中期的な計画の策定・実行・評価 (PDCA サイクル) による大学価値向上と 確実に推進するため、教員と事務職員等が、教職協働体制のレベルアップを図る。
- 2. 危機発生時における体制の整備と、BCP を含めた各種マニュアルの更新を行う。
- 3. 教職員に対し、ハラスメント防止対策などの社会的責任、法令遵守に対する意識を向上させる 研修会等を行うことで、組織の体制整備のレベルアップを図る。

責任者:豊田長康(学長)

分担者:鈴木秀幸(法人事務局長)、村田尚久(大学事務局長)、松永ひとみ(大学事務局部長)、大畑太(学生課長)、矢田智樹(人事・厚生課長)、辻紀子(企画広報課長)、岩田善光(経理課長)、防災危機管理対策委員会

事務局: 学生課、人事・厚生課

	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
中期計画 1.						
中期計画 2.						-
中期計画 3.						-

2023年度活動計画

対応する中期計画項目 活動計画内容 1. 実効性のある中期的な計画 中期計画・活動計画達成状況の自己点検・評価及び外部評価に基 の策定・実行・評価(PDCA づき、PDCA サイクルの質を向上させ、さらに、令和 4 年度に受 サイクル) による大学価値向 審した大学機関別認証評価結果からの指摘事項について、全てを 上と確実に推進するため、教 改善課題項目と位置づけて改善していく。 員と事務職員等が、教職協働 【大学事務局に関すること】 体制のレベルアップを図る ・内部質保証に関する全学的な方針をまとめ明示する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 内部質保証に関する全学的な方針をまとめた内部質保証体制図 を作成し、大学協議会の承認を経て、ホームページに掲載した。 ・上記以外の改善課題項目は該当重点分野で立案する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 令和5年第1回活動計画・実行委員会にて各指摘事項に対応す る重点分野について審議し、該当重点分野で改善課題項目を立案 した。

【法人事務局に関すること】

- ・理事会、評議員会、監事等に関する事項(7項目)は、既に対応しているものも含め、今年度中に修正・改善を図る。
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

理事会、評議員会、監事等に関する指摘事項については、全て 修正改善を行った。

- ・有価証券の資産の計上基準(1項目)については、検討の上、 今年度中に対応を決定する。
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

令和5年11月に公認会計士と協議した結果、従来どおり売買目的有価証券に関して流動資産として取り扱うことが妥当であるとの結論に達した。また資産運用については、従来どおり、運用内規に従いつつリスクに配慮しながら資産運用を行う。

2. 危機発生時における体制の 整備と、BCP を含めた各種マ ニュアルの更新を行う たとえ万全のリスク管理を実行しているとしても不測の事態に遭遇する危険を常に含んでいる。時代の変遷や情報化の進展、グローバル化に伴って多様化しており、今まで以上にスピードが要求されるようになってきている。引き続き社内体制や手順、役割分担などを明確にしておく事象毎のマニュアル制作を行う。

□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

BCP に関しては既にマニュアル化され、本学ホームページ(学内専用コンテンツ)に掲載済みであり閲覧可能となっている。その他、事象ごとのマニュアルの作成・見直しについては、防災・危機管理対策委員会を構成する各部門の危機管理委員会において進められており、近日開催の防災・危機管理対策委員会で情報共有がなされる予定である。

3. 教職員に対し、ハラスメント防止対策などの社会的責任、法令遵守に対する意識を向上させる研修会等を行うことで、組織の体制整備のレベルアップを図る

管理職やその他の職員がハラスメントに対する正しい認識をも ち、ハラスメントを未然に防止できるよう、階層別によるハラス メント研修会を開催する。

□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

2024年9月に管理職者を対象としたハラスメント研修会を開催した。参加率は92.7%であり100%には達しなかったが、今後も引き続き、ハラスメント防止のための研修や問題が生じた場合に適切に対応するための研修を開催していく。

重点分野9:財務基盤の充実

【基本方針:全体】

経営体制の充実・強化、財務基盤の充実、補助金等の外部資金の獲得

【中期計画】2021年度-2026年度

- 1. 学納金収入の増加のための取り組みの実行と検証
- 2. 教育設備・研究設備等に関する補助金収入の増加のための取り組みの実行と検証
- 3. 研究に関する補助金や大学のシーズを活用した外部資金の獲得のための取り組みの実行と検証
- 4. 経費削減に関する取り組みの実行と検証

責任者:鈴木秀幸(法人事務局長)

分担者: 辻井悦生(管財課長)、岩田善光(経理課長)、真弓 昭(研究振興課長)、

経費削減推進委員会

事務局:経理課

	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
中期計画 1.						-
中期計画 2.						•
中期計画 3.						-
中期計画 4.						-
中期計画 5.						-

2023 年度活動計画

対応する中期計画項目	活動計画内容
1. 学納金収入の増加のための取り組みの実行と検証	前年度同様に、重点分野 1:大学拡充計画の推進や重点分野 2:大学広報の強化と入学者受け入れの改善の計画の進捗により、学納金収入の増加を検討していく。(前年比 2.0%増を目標) □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 学納金収入は、前年度比△1.2%と減少したものの、基本金組入前当年度収支差額は前年度よりも 201 百万円増加しており、大学全体の収支としては良化している。
2. 教育設備・研究設備等に関する補助金収入の増加のための取り組みの実行と検証	①学科ごとの教育設備における中長期計画内容の共有化 ◆学科予算打ち合わせ時における各学科からの「今後 6 年間における学科内教育設備整備計画」の見直し及び共有化 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 R5 年度予算策定に活用、次年度(R6)継続予定 ②各学科の中期計画に則った教育設備に対する補助金や ICT などの施設設備に対する補助金の募集状況に応じた申請を行う

- ◆上記「学科内教育設備整備計画」に基づき申請予定
- ・ICT 活用推進(NW、無線設備整備費)
- ・研究設備(遠心ポンプシステム)(共焦点レザー走査顕微鏡)
- ·研究装置 (microTOF-Q 質量分析装置)
- ・教育装置(画像読影、処理、サーバーシステム)
- ・エコキャンハ ス (太陽光発電設備)
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容
- ICT 活用推進 (NW、無線設備整備費) (4/12 申請) 補助金採択額 17,270 千円 (6/27 內定通知)
- ・研究設備(遠心ポンプシステム)研究設備1点のため申請なし (共焦点レザー走査顕微鏡)(6/26申請⇒10/16 不採択)、
- ・研究装置 (microTOF-Q 質量分析装置) (6/26 申請⇒10/16 不採択)
- ・教育装置(画像読影、処理、サーバーシステム)(6/26申請⇒10/16不採択)
- ・エコキャンパス(太陽光発電設備)次年度(R6)へ繰り越し
- ・(追加募集) 施設整備(老朽化空調更新)(12/15申請⇒2//16採択)
- 3. 研究に関する補助金や大学 のシーズを活用した外部資金 の獲得のための取り組みの実 行と検証
- ① 教員の研究活動に資するための財務基盤として、大学の研究 シーズを活用した研究に対する補助金、受託・共同研究費、 寄 附金の獲得
- ◆教員の研究成果や取組事例の紹介等ホームページの充実を図る。
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

ホームページに以下の研究成果、取組事例等を公開した。

- ・教員の研究成果内容の紹介 (9名)
- 研究成果に対する受賞者の紹介(4名)
- · SUMS 学科横断的研究助成対象課題 (3課題)
- ・2023年度科研費採択課題一覧(16課題)
- ◆イノベーション・ジャパン等の産学連携イベントに参加し、学内の研究成果を積極的に発信する。
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

2023年9月7日、みえライフイノベーションシンポジウム本学と共同研究を行っている企業(江南化工(株))の研究成果発表

- ◆学内の研究成果等について、企画広報課と連携して社会的メディア (新聞・テレビ・ラジオ等) を活用した情報発信に努める。
- □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容
 - ・メディア

令和5年12月7日(木)中部経済新聞 令和6年1月11日(木)伊勢新聞

• 掲載内容

本学、江南化工(株)、三重大学の共同研究によるヒトエグサ・ラムナン硫酸の動脈硬化抑制効果に関する研究成果がMDPI社のCells誌に掲載された。

- 4. 経費削減に関する取り組みの実行と検証
- ① 経費削減推進委員会の活動対象を、従来の省エネルギーに関する活動以外に、事務局のコピー機利用削減(ペパーレス化)を目標とした活動を加える(全体枚数、カラコピー枚数前年比5%削減を目標)
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

毎月の電気使用量(料金)及びコピー枚数の報告を実施(毎月報告 実施)

コピー枚数 15.2%削減 (▲245 千枚削減)

- ② 施設関係 (千代崎・白子キャンパス)
 - 令和5年度の電気使用量は令和4年度電気使用量より1%削減省エネ行動の徹底及び照明LED化、高効率空調機への更改
 - ◆省エネルギー意識向上のための講演会の開催(年1回)
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容
 - ・省エネ講演の開催(9/1)
 - ◆サムスエコ通信の発信(年6回)
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容
 - サムスエコ通信の各月発信(5/31、7/27、9/26、11/27、1/25、3/27)
 - ◆新たな経費削減メニューの提案(令和5年10月) 経費削減コンサルティングの導入による削減項目抽出
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容
 - ・(株)プロレト・・ハートナース、よる検証を実施(7/20)⇒結果削減内容はなし(9/21)
- ③ 経費削減意識の向上を目的とした活動の継続的実行
 - ◆未使用講義室の消灯及び空調停止確認による電気使用量削減 (チェック表による確認)
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容
 - ・守衛による消灯及び空調機停止確認(空調運転時実施)
 - ・職員による省エネパトロールの実施(毎日実施)
 - ◆電気使用量実績共有による節電意識の向上 (月毎の使用実績の共有)
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容
 - ・経費削減推進委員会での報告資料作成(毎月実施)
 - ◆千代崎キャンパスへの太陽光導入検討(令和6年度実施予定)
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容
 - ・導入コスト等検討
 - ◆電気使用量の削減結果
- □達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) ■大幅遅れ有(30%未満)
 - ・電気使用量の 0.9%微増 (+47 千 k w増) ※7、11、3 月の気温による空調運転時間が影響

重点分野10:4つのポリシーの実質化

【基本方針:1】

面倒見の良い、魅力ある大学

【基本方針:5】

医療・福祉の総合大学化の完成と改組

【中期計画】2021年度-2026年度

- 1.4つのポリシーの運用に関するPDCAサイクルの仕組みを実行する。
- 2.ディプロマ・ポリシーの達成度をチェックし、向上させる仕組みを実行する。
- 3.各学科のアセスメントポリシーに基づいて、自己評価委員会を通して点検・評価し改善する。

責任者:豊田長康(学長)

分担者:教育改革委員会、教育質保証委員会

事務局:教務課

	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
中期計画 1.						
. (thm = 1 = == a						
中期計画 2.						-
. (. thm = 1 = == a						
中期計画 3.						

2023年度活動計画

対応する中期計画項目 活動計画内容 ①教育目標を踏まえたディプロマ・ポリシーを学生に周知する。 1.4つのポリシーの運用に関 するPDCAサイクルの仕 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 組みを実行する 上記達成状況の具体的内容 新入生にはオリエンテーション、在学生にはガイダンス時にカ リキュラムマップを説明し、ディプロマ・ポリシーとの一貫性を 周知している。また、後期から導入した教務システム A-Portal の 「自己評価」機能から、学生個々の履修科目の成績がディプロマ・ ポリシーに繋がっていることが可視化できるように設定し、所属 学科での平均値との比較も可能となったため、今後の個人面談の 際に活用し、学修の指針とするように指導している。学内に限ら ず大学ホームページ上にも、4つのポリシーおよびカリキュラムマ ップを公開している。 ②4つのポリシーと教育課程との整合性を教育質保証委員会が点 検し、教育改革委員会へ状況を報告する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 各学科の教育質保証委員会は、11月と3月の年2回、学修成果 を基に学科の教育課程との整合性に関する報告書を提出し、教育 改革委員会は提出された報告書を確認し、審議した結果を、各学 科の教育質保証委員会へ、報告・指摘する仕組みを今年度も実行 している。

2. ディプロマ・ポリシーの達成度をチェックし、改善点を検討する。

- ①卒業予定者に、学修成果に関する達成度を測定するアンケート を実施し、蓄積している調査結果と併せて分析し、改善点等に ついて、教育質保証委員会で検討する。
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

ディプロマ・ポリシーの達成度について、卒業生の平均 GPA 値で比較すると、2020 年度: 2.55、2021 年度: 2.50、2022 年度: 2.61、2023 年度: 2.65 と推移しており、卒業生の GPA 値が上昇していることが分かる。また、卒業者のうち、学修成果に係る自己評価調査の集計結果から、教育目標が 4 段階中「③達成できた」「④ほぼ達成できた」と評価した割合が 2020 年度: 86.8、2021 年度: 86.1 であった。2022 年度からは 6 段階となり「③やや身に付いている」「④多少身に付いている」「⑤かなり身に付いている」「⑥非常に身に付いている」と評価した割合が 97.2%であり、2023 年度は、95.9%であった。目標であった 90%に届いたため、達成(100%)と評価した。今後も目標を達成できるように教育質保証委員会で検討していく。

- ②卒業生及び卒業生の就職先等へ調査した結果を基に、ディプロマ・ポリシーの達成度をチェックし、教育改善へ反映を図る。
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

以下の内容で調査した結果を就職委員会および教務委員会で確認し、検討した。

(2019 年度卒業生対象) 発送: 令和5年8月2日、回答締切: 9月30日、発送数: 525、回答数: 69、回収率: 13.1%

(卒業生の就職先対象)発送:令和5年8月4日、回答締切:9 月30日、発送数:225、回答数:142、回収率:62.7%

その結果、「本学の学生に対して、在学中に身につけてほしいこと」について、「コミュニケーション能力」が昨年度に引き続き1位となったが、昨年7位から急上昇し今年度2位に入ったのが「ストレスコントロール力」であった。「コミュニケーション能力」については、就職講座にて理論的な説明に留まるのではなく、学生がすぐに使えるような実践的なものとなるような内容を計画しており、「ストレスコントロール力」に関しては、レジリエンス教育を臨床実習前教育に取り入れることを検討するなど、改善を図ることとした。

- ③教育方針の改善点等について、年度末に教育質保証委員会は、 教育改革委員会へ報告する。
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

教育方針の改善点等について、今年度も4月に教育質保証委員会から教育改革委員会へ報告され、教育改革委員会で確認作業を 実行した。

3. アセスメントポリシーについて、教育質保証委員会を通して確認する。

- ①教務システムの新規導入し、その機能を活用し、学生自らが、 学修行動を振り返り、立ち位置を確認し、教育質保証委員会を 通して、主体的な学習を促すための仕組みを構築する。
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

新教務システム(A-Portal)は、8月教職員、9月学生、11月 保護者に対して稼働を開始した。導入支援研修会や、マニュアル 等を配布し、不具合等を調整しながら、徐々に軌道に乗りつつあ り、また、「自己評価」機能から、成績による立ち位置の確認、科 目達成度の自己評価および学生の学修計画や振り返り等が可能と なり、担任教員から指導やコメントを返すことで学生自らが学修 行動を振り返り、今後の自主的な学習を促すための仕組みが構築 できるようになった。今後、この機能を活用するために、学生へ 入力指導や教員への分析方法等の説明会を行っていく予定であ る。

- ②反転授業の推進、オンライン環境下での試験実施方法の開発など新たな学修評価の在り方を開発する。
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

基礎学力養成教育を意識したリメディアル教育は「医療人底力教育センター」内に 2022 年度から組織し運営している。そして、遠隔会議システム Zoom や動画などを活用した反転授業用教材を事前学習や事後学習に役立てるために、全教員及び全学生がlearning を活用できる体制を整備し、7割超の教員が教材をおくなど活用している。2023 年度版の FD ハンドブックを作成し、SUMS-PO や learning の利用方法紹介および教育改善取り組みの具体的例示等を掲載し、LMS 研究部会を中心に学修評価の在り方を開発する活動をしている。

重点分野 11: 各学科教育の特色(放射線技術科学科)

【基本方針:1】

面倒見の良い、魅力ある大学

【基本方針:5】

医療・福祉の総合大学化の完成と改組

【中期計画】2021年度-2026年度

- 1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善
- 2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み
- 3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導
- 4. 市民公開講座の計画・実施

責任者:放射線技術科学科長

分担者: 大井一弥 (国家試験対策 WG 副委員長)、村田尚久 (大学事務局長)、松永ひとみ (大学事

務局部長)、宮﨑和裕(就職・キャリア支援課長)、松原奈未(教務課長)

事務局:教務課

	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
中期計画 1.						-
中期計画 2.						-
中期計画 3.						-
中期計画 4.						
中期計画 5.						

2023 年度活動計画

対応する中期計画項目 活動計画内容 1. 学生および保護者の期待に 教育環境の充実 ① 学生教育用に準備された最新医療機器を使い、臨床現場に則 応えるための教育内容の充 実と教育方法・教授方法の した学内実習を実施し教育内容を充実化する。そのために、 更なる改善 計画的な機器の更新・管理運用を行う。令和5年度には、診 療画像読影システムの構築を目指す。 □達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%)□遅れ有(50%)■大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 文科省に補助金申請したが 2023 年度は申請が下りなかった ② 学生の自己学修時間や場所の確保等について環境整備をす □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 コロナが5類になったことから個々のスペースは少ないが確 保できた 2. 質の高い臨床実習を実現するため、改善点として以下を計 画する。 ① オンラインミーティングシステム(ZOOM)を活用し、全臨床 実習指導施設(約70施設)を対象とした臨床実習報告会お よび次年度臨床実習説明会を開催する。実施時期は8月およ

び3月頃を予定する。

□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

8月30日に55施設116名、3月6日に53施設133名の参加者 を得て行った

- ② 2年次5月に臨床実習希望施設調査を行うとともに教員との協議面談等を経て臨床実習指導施設を仮決定する
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

教員が手分けをして学生が希望する施設に仮決定した

③ 3年学内実習においては対面で行い、年度末に学内教員により対面での実技試験(OSCE)を導入する。

□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

前期・後期とも実習は対面で行うことができた 実技試験は2月末に行う予定

- ④ 臨床実習中、毎日の適度な目標設定とポジティブフィード バックおよびリフレクションを促す独自の「臨床実習ノー ト(ポートフォリオ)」を作成し、効果的な経験学習を促進 する。
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

学科独自の臨床実習ノートを活用

- 3. 教授方法のさらなる改善
- ① 学修サポートシステムの教員活用を進める。特に今年度は、L BOX 等のイーラーニングを用いた予習復習支援教材を導入 する。2023 年度は専門科目の90%以上で導入することを目 指す。
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

learning BOX や SUMS-PO の課題管理、A-Portal の課題管理を 利用して行った

- ② すべての演習・実習科目においてルーブリックを評価尺度として用い、総合評価に反映させる。
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

新任の教員も含めすべてに用いた

- 2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み
- 1. 1年次の早期に臨床等で専門の資格を持って活躍、あるいは社会人大学院生として活躍する診療放射線技師と接する機会をつくり、将来のキャリアデザインを描く手がかりとする。医療人底力実践基礎 I 学科プログラムにて企画する。
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

現役診療放射線技師6名を特別講師として招き行った

- 2. 初期教育の一環として専門職にふさわしい態度等を学ぶ機会をつくる。マナー・ノンテクニカルスキル教育を 2-3 年生対象に実施する。特に、学内実験実習においては、必ず取り組む。
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)

上記達成状況の具体的内容

学内実習において取り組めた

3.各資格試験の合格率及び入 学者あたりの合格率の目標 設定とその達成に向けた教 育指導 1. 目標値

受験者あたりの合格率 95% HR20 年入学生あたりの合格率 80%

□達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

今年の卒業予定者 114名 合格者数 98名 合格率 86.0% (内、HR19生 93名 入学生あたり 78.2%)

2. 指導内容

教員が、学生全員を合格に導く熱意と気概を持ち、下記指導を徹底する。

- ① 1年次より国家試験への危機感を高め、出題傾向を意識した授業を実施する。
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

国試の過去問を授業に取り入れ解説を行った

- ② 1年生、2年生は年1回の模擬試験を実施、3年生は年2回の模擬試験実施、4年生は年6回の模擬試験を実施する。
- ■達成(100%)□ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容
 - 1年生は2回実施
 - 2年生は1回実施
 - 3年生は2回実施
 - 4年生は実力試験を含め7回実施
- ③ 4年次模試の結果から、後期以降、成績不振者を月1回の模 擬試験の結果から抽出し、対策授業とは別に補講を実施す る。補講では毎回、課題を暗記させ、イーラーニング等に よりアウトプットさせる。これを反復学習することにより、 習慣と知識を定着させる。
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

9月~11月にかけて模擬試験の各科目 60%未満の学生を対象 に対面等で月に 40回以上行った

- ④ 担任教員による学修状況の確認と学修指導を行う。1-3年生は年3回以上、4年生は月一度以上の面談を実施する。
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

全学生にはできなかったが成績不良者や授業をよく休む学生 には3回以上行った。4年生は毎月の模擬試験後行った

- ⑤ 4年後期、週一日、国試対策講義を開講する。
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

模擬試験を含め行った

⑥ 模擬試験後の担任個人面談を実施し、生活状況の改善や国 家試験学習支援(個人指導)を行う。

□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)

	上記達成状況の具体的内容 指導を行っているが対応のできない学生がいる ② 模擬試験成績不振者の保護者へ成績通知を行う。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 すべての模擬試験で行った ③ 10 月以降模擬試験や 9 月以降国家試験対策講義(放射線科学特論)では、座席を模擬試験成績順(成績下位者から順に前方)に指定席を設定する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 模擬試験ならびに補講で行った
4市民公開講座の計画・実施	・診療放射線技師の職務内容を広く多くの方に伝えるために市民公開講座を開催する。 □達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 鈴鹿市の健康フェア―に学科共催でピンクリボン活動を行った大学祭で三重県診療放射線技師会と共催で市民公開講座を開催した。

重点分野 11: 各学科教育の特色 (医療栄養学科/医療栄養学科管理栄養学専攻)

【基本方針:1】

面倒見の良い、魅力ある大学

【基本方針:5】

医療・福祉の総合大学化の完成と改組

【中期計画】2021年度-2026年度

- 1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善
- 2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み
- 3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導
- 4. 市民公開講座の計画・実施

責任者:医療栄養学科長/医療栄養学科管理栄養学専攻長

分担者:管理栄養学専攻長、大井一弥 (国家試験対策 WG 副委員長)、村田尚久 (大学事務局長)、 松永ひとみ (大学事務局部長)、宮﨑和裕 (就職・キャリア支援課長)、松原奈未 (教務課 長)事務局:教務課

	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
中期計画 1.						-
中期計画 2.						-
中期計画 3.						-
中期計画 4.						-
中期計画 5.						

2023 年度活動計画

対応する中期計画項目 活動計画内容 1. 学生および保護者の期待に 1. 実習試験の導入と拡大 実習の効果をより可視化し適正な評価を行うために、実習の評 応えるための教育内容の充 実と教育方法・教授方法の 価法としてレポートによるだけでなく、実習試験を実施するよう にしてきた。この方向性を継続拡大し、学生の自主的学習態度の 更なる改善 一層の涵養に務める。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 生化学実験、基礎栄養学実習、食品学実験等多くの実習につい て実習試験を導入した。 2. IR 分析結果を活用した教育改善 IR室との連携をもって、学生の教育および生活の問題点を解析 し、早期の解決を図るための検討資料とする。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 模擬試験と国家試験との関連を IR で解析し、国家試験指導の 資料とすることができた。 3. 教育の保証委員会 "教育の質保証委員会"により教員がシラバスに沿った教育を

進めていることを評価確認し、必要に応じて助言する体制確立をめざす。

■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

シラバスチェックを行い、教育の進行可能かを確認している。

2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み

1. キャリアプラニング授業の構築

学生の将来のキャリアプラニング充実を目的として、卒業生を 含む学内外の人を招き、モチベーション向上につながるような授 業形式の懇話会/セミナーを計画する。

■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

医療人底力実践 I の学科プログラムにおいて卒業生による講話を行った。

2. 早期導入教育の充実

1年生底力教育を利用して、管理栄養学専攻の立案に基づいて 病院や福祉施設での管理栄養士の仕事を見学する機会を設け、早 期の段階から学生の向学心高揚を目指す。

■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

病院、特別養護老人ホームを訪問し、管理栄養士の仕事を見学することができた。

3. リメディアル教育の実効性向上

受験者数減少が進み、入学者の学力レベル低下が懸念されるためリメディアル教育の充実は喫緊の課題である。対象となる学生にリメディアル教育への参加を促し、成果としての学修到達度を担任教員が把握してモチベーション向上をはかるように指導する。

■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

一定の成績以下の学生を対象にリメディアル教育への参加を 促している。

4. 成績不振者に対するトコトン教育の充実

1~3年の後期終了時に成績不振者に対し、2者ないし3者面談を行い、IR推進室の分析結果や学習ポートフォリオ等を活用し、振り返りによる自己認識を行わせ、目的意識・学習意欲を高めさせると共に、learning BOX などの学修支援システムを活用した学習方法などの指導・支援を行う。

■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

2年前期終了後に成績不振者について、3者面談により指導支援を行っている。

5. 国家試験対策学習支援の充実

国家試験対策の柱となる模擬試験の結果を常時モニターし、模 擬試験では終了後直ちに振り返り学習の時間をとることにより、 学生が自ら集中すべき学習項目の確認できるようにする。また、 成績不振者には集中して補講や個別指導、及び保護者を交えた面 談などを行い、従来から進めてきた学生個々へのきめ細かな指導 を継続する。

■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

模擬試験終了後に間違った部分の振り返り学習を行った。成績

不振者については各科目下位の学生について個別指導を行っている。また、6月に2者面談、8月に保護者を交えた3者面談を行っている。

3. 各資格試験の合格率及び入 学者あたりの合格率の目標 設定とその達成に向けた教 育指導

1. 国家試験の現役受験者の合格率と入学者当たりの合格率向上

新卒者の管理栄養士国家試験合格率の目標は100%とする。また、進路変更や病気休学の学生を除いて、入学者の標準年限内の合格率は90%を目標とする。

□達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

管理栄養士国家試験の合格率は 76.3%であった。また、ストレート合格率 (入学者当たりの合格率) は 69.0%であった。

2. 国家試験対策

カリキュラムとして4年生前期の総合演習II、及び医療栄養学特別演習で国家試験対策の指導を行う。

■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

総合演習Ⅱでは基礎的な内容を指導し、医療栄養学特別演習では国家試験レベルの指導を行っている。

3.3年生以下の学生対象の国家試験対策

3 年生に対しても国家試験問題に接する機会が持てるようにして、学習の意義を具体的に意識させる。また、3 年生の模擬試験受験を積極的に指導する。

■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

4年生直前の3年生の3月に模擬試験を行い、国家試験問題に接している。

4. 市民公開講座の計画・実施

1. 市民公開講座の実施

公開講座を開催し、市民に本学科の研究、教育を紹介するともに、この地域の健康、福祉の向上に貢献する。

■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

9 月の市民対象の救急・健康フェアにおいて、「健康的な食事を考える」 と題して印南准教授が指導した。また、12 月に薬膳学会の市民公開講座にて、和の薬膳を考えると題して村林教授が講演。

重点分野 11:各学科教育の特色(臨床検査学科/医療栄養学科臨床検査学専攻)

【基本方針:1】

面倒見の良い、魅力ある大学

【基本方針:5】

医療・福祉の総合大学化の完成と改組

【中期計画】2021年度-2026年度

- 1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善
- 2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み
- 3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導
- 4. 市民公開講座の計画・実施

責任者:医療栄養学科長/医療栄養学科臨床検査学専攻長

分担者: 大井一弥 (国家試験対策 WG 副委員長)、村田尚久 (大学事務局長)、松永ひとみ (大学事

務局部長)、宮﨑和裕(就職・キャリア支援課長)、松原奈未(教務課長)

事務局:教務課

	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
中期計画 1.						•
中期計画 2.						-
中期計画 3.	-					-
中期計画 4.						
中期計画 5.						

2023 年度活動計画

対応する中期計画項目 活動計画内容 1. 学生および保護者の期待に 1. アチーブメントテスト(学習達成度確認試験)の充実 応えるための教育内容の充 アチーブメントテストを共用試験に位置づけて2・3年次に実施し、 実と教育方法・教授方法の 各テストで一定以上の得点を取ることを臨地実習履修条件に加える 更なる改善 仕組みを検討する。特に3年生の試験はゼミ選択の参考にする。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 新カリュキュラムで単位化された臨地実習前科目を実施。アチーブメ ントテストの実施。 2. OSCE(臨地実習前の技能修得到達度評価)の充実 OSCE確立に向け臨床検査技師養成所指導ガイドラインに基づ き、現在の評価内容や評価方法を改善する。試験項目を2-3項目 増やす。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 2023 年度より新カリが導入されている。OSCE も単位化された。血 液型、心電図等に加え、形態学を追加した。学生は試験になると勉 学に励むため効果はある。 3. IR 分析結果を活用した教育改善と成績不振学生の早期抽出法 の確立

教育の質保証委員会のIR委員及びLMS委員を中心にIRデータを解析し、その結果を基に教育内容・方法を改善する。また、成績不振学生とその予備軍を早期に抽出できる仕組みの確立に向けた検討を行う。

□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

成績不振学生の抽出はまだ確実にポイント抽出できていないが、IR データが成績不振学生の予測にはなっていると考えられる。GPA を参考にしている。

4. 検査説明のための技能の育成

今後、臨床検査技師に求められる検査説明を行う為の技能の育成 に関して、主に以下の二つ点からアプローチする。

① 臨床検査医学演習(R-CPC を含む)の充実:授業評価と試験を基にさらなる充実を図る。

□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

②精度管理、臨床検査医学演習(R-CPC を含む)に関連する 症例を学びその説明ができるようにしている。さらに充実させる。

5. 新規臨床検査学教育コアカリキュラムの実施と検証

2022年4月の入学生から適用されるコアカリキュラムについて、各科目の実施状況を評価し改善する。

□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

新カリュキュラムである OSCE、安全管理学、タスクシフト等の授業はすべては終了していないが、厚生労働省指定講習会を通じて教育カリキュラムは実施できる体制は整っている。

6. 教育の質保証委員会

教育質保証委員会内規に基づき、当専攻における「トコトンできるまで教育(SUMS方式学修支援メソッド)」の確立・実施に向け教育に関連する課題について議論し、改革・改善を図る。

□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

教育質保証委員会おいて、臨床検査学科のトコトン教育を受ける条件を検討して、一定のレベルを確保するようにしている。学生にはだれでも合格できるのではなく、努力が必要であることを示すことにより効果を期待できる。 学生が努力することを教える。

2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み

1. 成績不振者に対するトコトン教育の充実

3年の後期終了時に、成績不振者に対し2者ないし3者面談行を行う。その際、IR 推進室の分析結果や学習ポートフォリオなどを活用し、振り返りによる自己認識を行わせ、目的意識・学習意欲を高める。また、learning BOX などの学修支援システムを活用した学習方法について指導・支援を行う。

□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

教育内容は面談を実施して個々の学生の性格等を理解する。そのうえで、勉強方法を示す。カード形式等を活用して学生意識を 高めている。 3. 各資格試験の合格率及び入 学者あたりの合格率の目標 設定とその達成に向けた教 育指導

1. 国家試験の現役受験者の合格率と入学者当たりの合格率向上

① 臨床検査技師国家試験の現役受験者の合格率目標値を 100%に、入学者(進路変更を除く)あたりの合格率目標値を 90%に設定し、以下 2.3.の取り組みを行う。2022 年度 92.4%

□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

2024年度、学力低下が認められるが補講等で学力向上に努めている。繰り返し学習の充実。

② 成績不振の学生に対しては、補講や面談といった人手による 手厚いケアを行い、モチベーションを含めて成績の向上を図る。

□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

計画を個々に設定して国家試験までに学力向上を図っている。

2. 全教科に共通する効果的な教育方法の構築

定期試験や模試結果の詳細な分析結果に基づき、全教科に共通する効果的な教育方法を構築する。

■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

模擬試験結果をふまえ、苦手教科を克服させている。必ず、裏回答を作成して次模擬試験に備えている。裏回答の作成の仕方も教える。

3. E ラーニングシステムの構築

記憶した知識のアウトプットが定着するまで、トコトンを繰り返すためのツールとして E ラーニングシステムの構築を進める。

□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

E ラーニングシステム、カード形式を採用して記憶のアウトプットに努力している。

4. 市民公開講座の計画・実施

1. 鈴鹿市健康フェアーの参加

市民を対象に年1度、鈴鹿医療科学大学白子キャンパスで医師会、薬剤師会、看護協会等で開催する。臨床検査学専攻も超音波 検査を実施する。

□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

2023 年度鈴鹿市健康フェアーの形態が変化し、食に関する内容を中心としたフェアーになったため、血管(頸動脈)の実施はできなかったが、本学科の棚橋教授が「お茶で加工した干物で健康をめざそう」をテーマに講演した。

2. 検査と健康展の参加(北勢地区)

市民を対象に年1回、健康展を三重県臨床検査技師会主催で行う。市民を対象とした市民公開講座が開催される。 鈴鹿医療科学大学のブースを作成して高校生・一般市民に啓発す

鈴鹿医療科学大学のブースを作成して高校生•一般市民に啓発す る。

■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

四日市近鉄にて開催され、血管(頸動脈)、物忘れ、骨密度等の検査を行った。約400名が参加された。本学、3年生が「学生が思う未来の臨床検査技師像」を発表した。

鈴鹿医療科学大学のブースを出し高校生に啓発した。 学生も来場して勉強になった。2024年度は本学にて開催予定。

第1-3期の活動計画

重点分野 11: 各学科教育の特色 (リハビリテーション学科理学療法学専攻)

【基本方針:1】

面倒見の良い、魅力ある大学

【基本方針:5】

医療・福祉の総合大学化の完成と改組

【中期計画】2021年度-2026年度

- 1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善
- 2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み
- 3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導
- 4. 市民公開講座の計画・実施

責任者: リハビリテーション学科長

分担者: 大井一弥 (国家試験対策 WG 副委員長)、村田尚久 (大学事務局長)、松永ひとみ (大学事

務局部長)、宮崎和裕(就職・キャリア支援課長)、松原奈未(教務課長)

事務局:教務課

	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
中期計画 1.						-
中期計画 2.						-
中期計画 3.						-
中期計画 4.						
中期計画 5.						

2023 年度活動計画

対応する中期計画項目	活動計画内容
1. 学生および保護者の期待に 応えるための教育内容の充 実と教育方法・教授方法の 更なる改善	2024 年国家試験出題基準改定に合わせたカリキュラム改定、 講義内容の増加、担当者変更を行い、2023 年度より実施する。 特に画像評価、薬理学、ウイメンズへルス等の新出題分野の 対策に注力する。 ■達成(100%) 口ほぼ達成(実行中・80%) 口遅れ有(50%) 口大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 画像評価、薬理学は科目を新設した。ウイメンズへルスは非常 勤講師による講義を理学療法特論(4年後期)実施した。
2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み	昨年からの継続事業として 1 年次、本学の特色であるロボットリハビリテーションの現場見学を通じ、学生の動機づけを図る。少人数のグループ毎に、本学敷地内の鈴鹿ロボケアセンターで実施する。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)上記達成状況の具体的内容 1 年次後期終了後に実施。 1 年次、底力教育の中に、障害者、家族の談話に傾聴する時間を設ける。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満)上記達成状況の具体的内容

	底力教育学科プログラム(1 年前期)で実施。
3.各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導	本学学生の国家試験の解答内容から正解率の低い分野、科目を抽出し、科目担当者による講義内容の強化、成績不良者への補講を実施する。目標は新卒合格者 100%、入学者あたりの合格率 75%。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容新卒合格者 97%、入学者あたりの合格率 63%。 木曜1限を利用し、2年生を中心に基礎専門科目の理解を促すためグループによるアクティブラーニングを実施する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 2023 年度前期より実施。24年度も継続。
4. 市民公開講座の計画・実施	新型コロナ感染拡大状況に応じ、対面での市民公開講座を計画。年度内の実施を調整。 ■達成(100%)□ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 2024年2月23日に実施。

重点分野 11: 各学科教育の特色(リハビリテーション学科作業療法学専攻)

【基本方針:1】

面倒見の良い、魅力ある大学

【基本方針:5】

医療・福祉の総合大学化の完成と改組

【中期計画】2021年度-2026年度

- 1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善
- 2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み
- 3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導
- 4. 市民公開講座の計画・実施

責任者: リハビリテーション学科長/リハビリテーション学科作業療法学専攻長

松永ひとみ(大学事務局部長)、宮崎和裕(就職・キャリア支援課長)、松原奈未(教務

事務局:教務課

	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
中期計画 1.						-
中期計画 2.						-
中期計画 3.	-					-
中期計画 4.						-
中期計画 5.						

2023 年度活動計画

対応する中期計画項目 活動計画内容 1年生では VR 教材を利用し臨床実習の初期の段階の準備を行 1. 学生および保護者の期待に 応えるための教育内容の充 う。2年生では1週間の実習を2回行い、病院の概要を知る。3 実と教育方法・教授方法の 年生では評価実習を5週間行う。4年生の総合臨床実習では9 週間の実習を2回行い、療法士としての基礎を習得する。実習配 更なる改善 置から実習訪問など円滑に行うように計画を立てる。また、臨床 実習の事前学習として OSCE を用い、実習中は支援システムを実 施し、学校と臨床現場との密な交流に役立てる。このことで臨床 実習での問題を出来るだけ早期に解決できるように援助する。そ のため、授業では実習に出るための知識と技術を獲得するため工 夫して教授する。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 1年生に VR 教材を利用した授業で臨床実習の初期の段階の準 備を行えた。2年生に1週間の実習を2月・3月に行う予定であ る。3年生では評価実習を5週間行った。4年生の総合臨床実習 では9週間の実習を2回行った。臨床実習の事前学習としてOSCE を行い、実習中は支援システムを実施した。

2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み

学習支援:講義・実習において小テスト等を利用すること、講義では実際臨床現場で用いられている治療機器を使用し、実習する。試験問題では国家試験に関する問題を3分の1出題することにより国家試験に慣れるように支援する。ラーニングボックスを利用して自主的な勉強に取り組めるように指導する。

□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

講義・実習において小テスト等を利用し、講義では治療機器を使用し、実習した。試験問題では国家試験に関する問題を3分の1出題した。ラーニングボックスを利用して自主的な勉強に取り組めるように指導した。

向学心の高揚:現場の臨床で働いている作業療法士や作業療法士 の治療手段である作業に精通している芸術家、障がいを有し、自 立した生活を送っている方を特別講師として授業で講義してい ただき、学生の作業療法士としての向学心の高揚への取り組みを 行う。

□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

実習でお世話になっている作業療法士や作業に精通している芸術家、障がいを有し、自立した生活を送っている方を特別講師として授業で講義していただいた。

3. 各資格試験の合格率及び入 学者あたりの合格率の目標 設定とその達成に向けた教 育指導 国家試験の合格率は100%を目指し、最低でも全国平均を上回る合格率を確保する。そのため、1年から4年次にかけて主要科目である3科目(生理学、解剖学、運動学)の業者模試を行い、学習効果の確認と学習の度合いを学生自身に周知させ、この模試での成績不振者においてはラーニングボックスを用いて振り返りを行わせ補習を実施する。また、学生には自主的に国家試験学習ノートの作成を課す。また、4年次の「総合演習」において外部から講師招いて、国家試験の学習戦略とグループワークを習得させ、さらに業者模擬および学内試験を実施して指導する。加えて、補習授業を課して、成績不良者の学習を促進させる。

□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) □評価不可

上記達成状況の具体的内容

今年度は昨年度同様に外部講師を招いてグループを中心に取り入れて学習を行った。学習が遅れている者には学生同士で助け合い、さらに補習を用意し、指導した。国家試験の合格率は93.3%で全国平均(91.6%)を上回ったが100%には達しなかった。

4. 市民公開講座の計画・実施

市民公開講座は専攻会議で現在開催をすることを前提に検討中である。

■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) □評価不可

上記達成状況の具体的内容

3月16日に鈴鹿医療科学大学千代崎キャンパスで公開講座を開催した。テーマはフレイル予防に向けた健康づくり~フレイルに関する知識と日常の身体活動について~で、藤井准教授が講師になって行った。参加者は約50名集まり、公演後も活発な質疑応答がなされた。

重点分野 11: 各学科教育の特色 (医療福祉学科医療福祉学専攻)

【基本方針:1】

面倒見の良い、魅力ある大学

【基本方針:5】

医療・福祉の総合大学化の完成と改組

【中期計画】2021年度-2026年度

- 1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善
- 2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み
- 3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導
- 4. 市民公開講座の計画・実施

責任者:医療福祉学科長

分担者: 大井一弥 (国家試験対策 WG 副委員長)、村田尚久 (大学事務局長)、松永ひとみ (大学事

務局部長)、宮崎和裕(就職・キャリア支援課長)、松原奈未(教務課長)

事務局:教務課

	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
中期計画 1.						-
中期計画 2.						
中期計画 3.						-
中期計画 4.						
中期計画 5.						

2023 年度活動計画

対応する中期計画項目	活動計画内容			
1 学生および保護者の期待に 応えるための教育内容の充実 と教育方法・教授方法の更なる 改善	・1年時から徐々に国家試験への意識付けを行い、3年次以降は卒業論文作成、就職試験(公務員)対策、国家試験対策の3つの優先順位を整理し、各個人の力量に合わせて対応する。必ずしも国家試験受験を強要せず、インターンシップも積極導入する。□達成(100%)■ほぼ達成(実行中・80%)□遅れ有(50%)□大幅な遅れ有(30%未満)上記達成状況の具体的内容卒業論文提出日を大幅に早い時期に移し、国家試験の学習時間を確保する方向へとチェンジしている。また、国家試験受験をしない層向けの養成可能となる様なカリキュラム改正にむけて科目構成を終えた。			
2. 効果的な学習支援と向学心 の高揚への取り組み	・コロナ感染症の5類認定に伴い、対面での活動の制限が軽快化ていくことに鑑み、下位学年から各種のボランティア活動等に積極的に取り組ませる。3年生以降は学内外の模試に参加させ基礎学力の向上を目指す。 □達成(100%)■ほぼ達成(実行中・80%)□遅れ有(50%)□大幅な遅れ有(30%未満)上記達成状況の具体的内容 鈴鹿市主催のアルツハイマーディin 鈴鹿に1.2年生18人が様々な取り組みへ参加協力した他、児童館、障がい者施設等のボランティア活動により、以後の学外実習の補助となった。			

3. 各資格試験の合格率及び入
学者あたりの合格率の目標
設定とその達成に向けた教
育指導

・2年から3年時への春休み期間中に実施する8日間の社会福祉 士実習Iにおいて、個々人の適性を評価したうえで以後の進路を 相談のうえ決定する。国家試験を受験する学生には今年度並みの 8割合格を目指した取り組みを展開する。

□達成(100%)■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

模擬試験の未受験者、福祉関係以外の職に就く学生の記念受験的なものもあり、社会福祉士国家試験合格者が 66.7%に留まった。精神保健福祉士については 100%合格であった。

4. 市民公開講座の計画・実施

- ・臨床心理専攻と協議のうえ、2月に「発達障がい児の療育」について外部講師を招き共同開催する。
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

小児精神科医の市民公開講座を2月に開催したところ、多くの一般市民の方々の参加があり、意義深いものとなった。

重点分野 11: 各学科教育の特色 (医療福祉学科臨床心理学専攻)

【基本方針:1】

面倒見の良い、魅力ある大学

【基本方針:5】

医療・福祉の総合大学化の完成と改組

【中期計画】2021年度-2026年度

- 1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善
- 2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み
- 3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導
- 4. 市民公開講座の計画・実施

責任者:医療福祉学科長/医療福祉学科臨床心理学専攻長

分担者: 臨床心理学専攻長、大井一弥 (国家試験対策 WG 副委員長)、村田尚久 (大学事務局長)、 松永ひとみ (大学事務局部長)、宮﨑和裕 (就職・キャリア支援課長)、松原奈未 (教務課長) 事務局: 教務課

	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
中期計画 1.						—
中期計画 2.						-
中期計画 3.						-
中期計画 4.						
中期計画 5.						

2023 年度活動計画

対応する中期計画項目	活動計画内容
1. 学生および保護者の期待に 応えるための教育内容の充 実と教育方法・教授方法の 更なる改善	①専攻学生全員が外部実習に参加できるよう、また希望する全員が学部における公認心理師受験資格を得られるよう目指す。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 希望者全員が受験資格を得られる状況で終了しました。外部実習で問題を抱えた学生が出てきましたが、所属教員一同の適切な対応で継続できました。
	②講義内で小テスト、またはグループワークの場を合計 3 回以上 実施することで、学力および社会性を高める。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 後期ではできていない科目もありましたが、達成状況を踏ま え、改めて小テストやグループワークの実施を取り入れました。
	③レポート課題に対しては、次につなげるために修正点を指摘するなど丁寧に指導する。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 2年生の「心理学実験」では、添削を詳細に行いました。また

特に1年の科目においては、レポートの書き方に注意を向けるよ う指示した上で執筆させました。 2. 効果的な学習支援と向学心 ①1年次における「臨床心理学の基礎」「医療人底力実践 I (学 科プログラム)」で、大学での学び方について支援を行う。 の高揚への取り組み ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 「臨床心理学の基礎」では、ノートの取り方、文献検索の仕方、 レポートの書き方など、大学での受講に必須の知識を学修させま した。また両科目で、臨床心理学に関する専門業務や各領域の活 動内容について講義を行い、学生たちが今後何を身につけるべき かの道標を提供しました。 ②現場の職員や特別講師を招聘し、実践学修への意欲を一層高め ることを目指す。受講生には授業に対する評価を実施し、学習の 動機づけになったか把握する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 大学院学生には、非常勤で招聘している先生方の講義後、分野 で独自に作成した授業評価項目に回答をさせました。担当してく ださった先生方に対する評価はいずれも非常に高いものでした。 ①公認心理師資格試験(2022年度)の全国合格率が48.3%であ 3. 各資格試験の合格率及び入 ったので、本学修了生は70%を目指す。 学者あたりの合格率の目標 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 設定とその達成に向けた教 上記達成状況の具体的内容 **育指導** 2022 年度修了生で公認心理師資格試験を受験した 3 名全員が 合格しました(合格率100%)。また、2023年度修了生で公認心理 師資格試験を受験した5名全員が合格しました(合格率100%)。 ②基礎的知識を高めることができる学びの機会を、指導教員を中 心に提供する。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 修了生に対する支援(研修会・勉強会、スーパーヴィジョン) を頻回にわたって実施しました。

> ③年度末の公認心理師資格試験に対応するため、模擬試験を最低 2回は受験するよう促す。

□達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

修士論文執筆、外部実習、こころの相談センターでのケースと 重なっており、模擬試験にまで手が回らない状況ですが、極力受 験するよう今後も支援します。

4. 市民公開講座の計画・実施

山田智子先生(総合心療センターひなが)をお招きし、性被害支援に関する公開講座を行う予定。

■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

内容を「発達障害への素朴な疑問に答えます」に変更して、2024年2月11日(日)に実施しました。医療福祉学科主催(附属こころのクリニック・附属こころの相談センター共催)で90名の市民が参加してくださいました。

重点分野 11: 各学科教育の特色(鍼灸サイエンス学科)

【基本方針:1】

面倒見の良い、魅力ある大学

【基本方針:5】

医療・福祉の総合大学化の完成と改組

【中期計画】2021年度-2026年度

- 1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善
- 2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み
- 3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導
- 4. 市民公開講座の計画・実施

責任者:鍼灸サイエンス学科長

分担者: 大井一弥 (国家試験対策 WG 副委員長)、村田尚久 (大学事務局長)、松永ひとみ (大学事務局部長)、宮崎和裕 (就職・キャリア支援課長)、松原奈未 (教務課長)

事務局:教務課

	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
中期計画 1.						•
中期計画 2.						•
中期計画 3.						•
中期計画 4.						
中期計画 5.						

2023 年度活動計画

対応する中期計画項目 活動計画内容 1. 学生および保護者の期待に 1 キャリア教育の充実 応えるための教育内容の充 鍼灸師の職業観や将来像涵養を目標とした教育として、下記、 実と教育方法・教授方法の 教育講演開催とキャリアプランの指導を強化する。 更なる改善 ① キャリア教育講演を年1回開催する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未 上記達成状況の具体的内容 12月8日(金)、「イギリスの鍼灸事情と英語の重要性につい て」をテーマに、英国認定中医師の直本美和先生よる教育講演を 実施した。 ② キャリアプランを作成させ、個人面談での助言・指導に活か す。(2~4年生)。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 鍼灸師教員全員で担当。鍼灸師となるあるいは東洋医学をする ことになったきっかけや経緯を紹介しながら、伝統医学・東洋医 学・スポーツ・美容・中医師・漢方・統合医療・海外の鍼灸・薬 膳・留学などのテーマに基づき、歴史・現状・将来像について解 説した。 2 病院・クリニックへの就職支援

病院・クリニックの鍼灸治療の融合と協力の実態調査に基づき、卒業生の病院・クリニックへの就職支援に取り組む。昨年度、2名が病院・クリニックへの就職が内定した。今年度も継続して適応可能な希望者を病院・クリニックへ就職させる。

■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

卒業生2名が病院・クリニックへ就職した(福岡県立医科大学 会津医療センター、とうかい整形すずか)。

- 3 鍼灸スポーツトレーナー学専攻のフィールドワーク実施 スポーツトレーナー学および資格試験の知識と技術をアウト プットするフィールドワークを実施する。コロナ禍の影響で活 動は中止していたが、昨年度より徐々に実施された。今年度 は、学生募集のために広報を含めたトレーナー活動を実施す る。
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

三重ホンダヒート (ラグビーフットボールチーム)、ヴィアティン三重女子サッカー、奈良県立御所実業高校ラグビー部にて実施。トップアスリートの練習方法・ケアー、トレーナー活動などを学習した。学生募集のために広報活動を含めて行った。

- 4 臨床実習の量の拡充と質の向上のため、下記見学実習を実施。
 - ①桜の森白子ホーム。
- □達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

新型コロナウイルス感染症の影響により実習中止。来年度に実施予定。

- ②三重大学医学部附属病院麻酔科(統合医療・鍼灸外来)。
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容
 - 6月19日、26日、7月3日に見学実習を実施した。

プロジェクターおよび音響装置の入れ替えが完了。

5 実習・実技教育の向上のための取り組み

基礎医学実習室の教育設備の入れ替えを行い、学習への理解、 満足度を高める。

■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み

1 学習目標:進級率90%以上

□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

2年次進級100%、3年次進級97%、4年次進級85%であった。

2 学習支援内容

学生との関わりとコミュニケーションを重視して下記内容を 実施。

- ① 出席および体調管理のチェックと指導
- ② 課題提出状況の把握と指導
- ③ 個人面談
- ④ 定期試験前後のフォロー
- ⑤ learning BOX の活用
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

授業態度・修学状況・成績などの情報に基づいて、早期から面談を実施。成績下位および欠席不良の学生には反復して行い、改善が乏しい場合は支援者に理解してもらい双方からのかかわりを強化した。

- 3 意欲向上・交流促進のためのプログラムを計画 歓迎会、球技大会、取穴大会を実施。
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

球技大会は5月25日(木)1限目に千代崎キャンパス体育館で実施、ソフトドッチボールを行った。歓迎会は8月4日(金)5限目に千代崎キャンパス食堂で実施、学生同士の自己紹介、食事、ビンゴ大会を行った。

3. 各資格試験の合格率及び入 学者あたりの合格率の目標 設定とその達成に向けた教 育指導 1 受験者あたりの合格率:100%を目標とする。

□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

受験者あたりの合格率は、はり師、きゅう師ともに 90.3%であった。

2 入学者あたりの合格率:75%を目標とする。

□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

入学者あたりの合格率は、はり師、きゅう師ともに 73.7%であった。

3 指導内容

教員が、学生全員を合格に導く熱意と気概を持ち、下記指導 を徹底する。

- ① 1年次より国家試験への危機感を高め、出題傾向を意識した 授業を実施。
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

全教員が気概を高め、国家試験を意識した授業を実施している。

- ② 対策授業の指導を強化し、要点文集を段階的に暗記させ、全て暗記するまで確認試験を繰り返す。
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

3、4 年生の国家試験対策授業にて実施した。学力の底上げにつながった。

- ③ 成績不振者を月1回の模擬試験の結果から抽出し、対策授業とは別に補講を実施する。補講では毎回、課題を暗記させ、口頭試問によりアウトプットさせる。これを反復学習することにより、習慣と知識を定着させる。
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

4年生は実力テストの結果から、1~3年生は期末テストの結果から60点未満の学生に対し、補講およびトコトン教育を行い、課題、口頭試問、小テストを実施、後期は再試験前にも実施することにより進級率および合格率を高めた。

④ learningBOX の活用して隙間時間を利用した学習を促進。 モチベーション維持・向上のために、定期試験後や補習終了後に 個別面談を行い、学生との関わりとコミュニケーションを重視 して国家試験まで一緒に取り組む。

	□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 国試該当科目において活用した。
4. 市民公開講座の計画・実施	9月下旬と12月上旬に開催準備中。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 12月3日に「和の薬膳の返還」のテーマで開催した。

重点分野 11:各学科教育の特色(救急救命学科)

【基本方針:1】

面倒見の良い、魅力ある大学

【基本方針:5】

医療・福祉の総合大学化の完成と改組

【中期計画】2021 年度-2026 年度

- 1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善
- 2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み
- 3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導
- 4. 市民公開講座の計画・実施

責任者:救急救命学科長

分担者: 大井一弥 (国家試験対策 WG 副委員長) 村田尚久 (大学事務局長) 松永ひとみ (大学事務局 部長) 宮﨑和裕 (就職・キャリア支援課長) 松原奈未 (教務課長)

事務局:教務課

平 4万/中· 4天4万 体							
	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	
中期計画 1.						-	
中期計画 2.							
中期計画 3.							
中期計画 4.							
中期計画 5.							

2023 年度活動計画

	-
対応する中期計画項目	活動計画内容
1. 学生および保護者の期待に 応えるための教育内容の充 実と教育方法・教授方法の 更なる改善	・ラーニングボックスを使用する教員割合を50%以上にする □達成(100%)■ほぼ達成(実行中・80%)□遅れ有(50%)□大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 75%の教員が使用している。
	・講義で小テストを行う教員割合を50%以上にする ■達成(100%) 口ほぼ達成(実行中・80%) 口遅れ有(50%) 口大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 100%の教員が行っている。
	・授業で学生に質問をし、回答させる形式を取り入れる教員割合を 5 0%以上にする。 上記達成状況の具体的内容
	■達成(100%)□ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 100%の教員が行っている。
	・教員が学生の名前を覚えるため、ネームホルダーを作る ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 ネームホルダーを作成した。

- 2. 効果的な学習支援と向学心 の高揚への取り組み
- ・現役の消防士、救急救命士を特別講師として招聘し、現場での活動に ついての講義並びに学生との対話の時間を設ける
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 底力教育、学科プログラムで2名を招聘した。
- ・各講義において、国家試験問題過去問を取りいれる
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

100%の教員が行っている。

- 3. 各資格試験の合格率及び入 学者あたりの合格率の目標 設定とその達成に向けた教 育指導
- ・受験者に対しての合格率:100%
- □達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

未評価 国試未受験 (入学者あたりの合格率は、すでに退学者が4名、留年生が1名いるので、最大で89%である。)

- ・消防士になるための公務員試験対策として、3年4月から、大原公務員試験対策専門学校の専門コース(オンデマンド)の受講(鈴鹿医療科学大学プログラム)を推奨し(受講料別途8万円必要150分授業を約50回分、テキスト、模擬試験付き)、公務員試験への準備を行う。各学生に声がけを行い、オンデマンドで自学してもらう
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

大原専門学校と調整し開始した。

- 4. 市民公開講座の計画・実 施
- •10月21日 13:30~

「救急時に役立つ英会話」

ネイティブスピーカーを招聘し、当学科教員と開催する。 参加者との対話を取り入れる企画を検討中

■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

計画とおり実施し、参加者は約60名であった。

- ・鈴鹿市消防本部と連携し、学生消防団を結成する。
- □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

学生への説明会を開催した。

重点分野 11: 各学科教育の特色(臨床工学科)

【基本方針:1】

面倒見の良い、魅力ある大学

【基本方針:5】

医療・福祉の総合大学化の完成と改組

【中期計画】2021年度-2026年度

- 1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善
- 2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み
- 3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導
- 4. 市民公開講座の計画・実施

責任者:臨床工学科長

分担者: 大井一弥 (国家試験対策 WG 副委員長)、村田尚久 (大学事務局長)、松永ひとみ (大学事務局部長)、宮崎和裕 (就職・キャリア支援課長)、松原奈未 (教務課長)

事務局:教務課

	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
中期計画 1.						-
中期計画 2.						
中期計画 3.						-
中期計画 4.						
中期計画 5.						

2023 年度活動計画

対応する中期計画項目 活動計画内容 1. 学生および保護者の期待に ①大学入学時に Early Exposure (病院見学、医療機器操作体験) 応えるための教育内容の充 を行い、初年次教育の充実を図る。 実と教育方法・教授方法の ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 更なる改善 上記達成状況の具体的内容 新入生を対象に、病院見学(三重大学医学部附属病院)と、学 内での医療機器操作体験を行った。 ②新カリキュラムへの移行を滞りなく進める。(新設科目および 履修学年変更があった科目の時間割配置、担当教員の割り振り など) □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 非常勤講師の担当科目を除き、新カリキュラム移行に伴う新設 科目および履修学年変更科目の時間割配置と担当教員の割当を 行った。 ③4年前期・後期に開講される特別演習科目を学科全教員で担当 し、国家試験対策を充実させる。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 学科教員全員で国家試験対策用の教材(臨床工学科ハンドブッ

- ク)を作成して学生に配布しており、4年前期・後期に開講している「臨床工学特別演習 I~V」、「生体機能代行装置学演習 IV」でこの教材を活用した国家試験対策を行っている。
- ④実習科目の実技試験は、ルーブリックを用いて評価を行い、実 習科目の総合評価に反映させる。
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

「生体機能代行装置学実習Ⅰ、Ⅱ」の実技試験では、評価表を 用いて実技試験の評価を行い、総合評価に反映させている。

- ⑤学修サポートシステムの教員活用を進める。
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

learning BOX を活用した資格試験対策のコンテンツが準備されており、その他活用事例についても学科内で紹介されている。 通常の講義や実験・実習科目についても、授業資料やオンデマンドの講義動画が学修サポートシステムにアップロードされている。また、A-Portal では面談記録を学生サポートメモに記載して教員間で学生情報の共有を行っている。

- ⑥保護者と連携の取れた指導の実施を進める。新入生と4年次過年度生を対象にして、出席状況が不良な学生や成績が不振な学生の保護者と密に連絡を取り、卒業までの脱落を未然に防ぐ指導を行う。
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

4年次の過年度生には、学生一人に対して教員一人を割り当て、出欠状況と成績を把握し、必要に応じて面談を実施している。また、6月と10月に、三者懇談を実施した。

新入生には、3名の担任を割り当てている。特別に指導が必要な学生には、10月の教育支援の会で個別懇談を行った。

2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み

- ①GPA に基づいた学習指導計画を図ると共に、GPA 上位の学生を対象に早期の進路活動を促す。
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

2年次後期にGPAが1.5以下の学生に対して学修指導を行っている。また、GPA上位の学生には、4年次の4月から就職活動のサポートを行っている。

- ②欠席の多い学生に対して、担任から早期に連絡を取り、状況を 把握する。
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

欠席回数の多い学生に対して、各学年の担任教員が連絡を取って指導を行っている。また、教育質保証委員会においても、欠席の多い学生の情報共有を行っている。

- ③大学祭における学科発表の支援強化を行う。
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

大学祭学科発表の担当教員を割り当て、医療機器の展示やソーラーライト作製を学科発表として実施した。

④学生へのボランティア活動情報を提供し、自治体が行うイベントへ参加・協力(展示等)を促す。

□達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

ボランティアセンター運営委員からボランティア情報提供を 行っている。2023年度は、自治体が行うイベントへの参加は実 施できなかった。

- 3. 各資格試験の合格率及び入 学者あたりの合格率の目標 設定とその達成に向けた教 育指導
- ①新卒学生の100%合格を目指し、入学者あたりの合格率は90%(38名/42名)を目指す。
- □達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

新卒学生の合格率は 97.3% (36 名/37 名) で、入学者あたりの合格率は 83.3% (35 名/42 名) であった。

- ②GPA 及び模擬試験によるクラス編成を行い、成績不振の学生を対象に前期から自習の義務付けと対策講義への出席を促す。
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

模擬試験の成績から、「Cクラス」と認定された学生は、国家 試験対策室での自習の義務付けと対策講義への出席を促した。

- ③各クラスの習熟度に対応した国試対策や学修サポートを行う。
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

模擬試験の成績と GPA から、「A クラス」、「B クラス」、「C クラス」にクラス分けを行い、それぞれのクラスに対応した国家試験対策を実施している。

- ④頻出問題と必要最低限な基本問題の演習を繰り返し行う。
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

最低限必要な項目を記載した「臨床工学科ハンドブック」を学生に配布し、「臨床工学科ハンドブック」を活用した対策講義を行うことで、頻出ポイント・必須問題の指導を行っている。

- ⑤各教員が国家試験の専門分野に精通し、国家試験全体も把握している。
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

国家試験の学内採点のために、模範解答を全教員で作成している。また、国家試験問題を回覧して頻出問題の抽出作業を行っているため、教員全員が国家試験の出題傾向について把握することができている。

- ⑥国家試験サポートソフトウェアの教員活用を進める。
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

国家試験サポートソフトウェアの「過去問活用ソフト」を用いた模擬試験の作成と採点を行い、学生全員の模擬試験の成績の管理を行っている。また、「過去問活用ソフト」で作成した模擬試験の解説を学科教員全員で実施している。

- ⑦早期から国家試験への意識を高めるために、3年次から全国統一模擬試験の受験を促す。
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

3年生全員が、第3回全国統一模擬試験の受験の申し込みを行った。

4. 市民公開講座の計画・実施

①医学・工学・生体医工学・臨床工学等に関する市民公開講座を行う。

□達成(100%) □ほぼ達成(実行中·80%) □遅れ有(50%) ■大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

2023年度は市民公開講座を開講することができなかった。

重点分野 11: 各学科教育の特色(医療健康データサイエンス学科/医用情報工学科)

【基本方針:1】

面倒見の良い、魅力ある大学

【基本方針:5】

医療・福祉の総合大学化の完成と改組

【中期計画】2021年度-2026年度

- 1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善
- 2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み
- 3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導
- 4. 市民公開講座の計画・実施

責任者: 医療健康データサイエンス学科長/医用情報工学科長

分担者: 大井一弥 (国家試験対策 WG 副委員長)、村田尚久 (大学事務局長)、松永ひとみ (大学事

務局部長)、宮﨑和裕(就職・キャリア支援課長)、松原奈未(教務課長)

事務局:教務課

	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
中期計画 1.						
中期計画 2.						
中期計画 3.						
中期計画 4.						
中期計画 5.						

2023 年度活動計画

対応する中期計画項目 活動計画内容 1. 学生および保護者の期待 ①コミュニケーション能力を向上させるために、PBL などの能動学 に応えるための教育内容 習の授業科目を増やし、グループワークや発表会などを 10 科目 の充実と教育方法・教授方 以上で実施する。 法の更なる改善 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 PBL などの能動学習の要素を取り入れた授業科目を「キャリアデ ザイン」「医療健康データサイエンス入門」「Web 基礎」「情報学基 磯」「IoT と生体信号演習 I」「IoT と生体信号演習 II」「情報の収集 と意味・演習 I 」「情報の収集と意味・演習 II 」「システム戦略入門」 「プロジェクトマネジメント入門」「卒業研究Ⅰ」「卒業研究Ⅱ」の 12 科目であり、目標を達成した。 ②データ・情報処理能力を向上させるために、コンピュータ実習・ 演習を含んだ授業科目を15科目以上にする。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 コンピュータ実習・演習を含んだ授業科目は「情報リテラシー」 「コンピュータ科学基礎」「コンピュータ科学基礎演習」「プログラ ミング概論」「ネットワークセキュリティ」「プログラミング I」「プ ログラミングⅡ」「医療人底力実践Ⅲ(データサイエンス)」「アル ゴリズム論」「プロ

グラミング \mathbf{III} 」「プログラミング \mathbf{IV} 」「プログラミング応用」「データベース基礎 \mathbf{I} 」「Web 基礎」「IoT と生体信号演習 \mathbf{I} 」「Web 基礎」「IoT と生体信号演習 \mathbf{I} 」「情報の収集と意味・演習 \mathbf{I} 」「情報の収集と意味・演習 \mathbf{I} 」「人工知能(AI) \mathbf{I} 」「人工知能(AI) \mathbf{I} 」「人工知能(AI)セミナー \mathbf{II} 」「医療情報システム実習 \mathbf{II} 」「医療情報システム実習 \mathbf{II} 」「下本業研究 \mathbf{II} 」「本業研究 \mathbf{II} 」「本業研究 \mathbf{II} 」の27科目であり、目標を大幅に超えた科目数となり、達成できた。

2. 効果的な学習支援と向学 心の高揚への取り組み

- ①基礎能力を向上させるために、learningBOX などのデジタル教材を活用した授業科目を10科目以上にする。
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

デジタル教材を活用した授業科目は、「情報リテラシー」「医療人底力実践Ⅲ(データサイエンス)」「医療健康データサイエンス入門」「情報処理技術セミナーⅣ」「キャリアデザイン」「Web 基礎」「IoT と生体信号演習Ⅰ」「IoT と生体信号演習Ⅱ」「情報の収集と意味・演習Ⅱ」「情報学基礎」「システム戦略入門」「プロジェクトマネジメント入門」「医療情報システム実習Ⅱ」の16科目であり、目標を超えており、達成している。

3. 各資格試験の合格率及び 入学者あたりの合格率の目 標設定とその達成に向けた 教育指導

- ①本学科の学生の就職先は、幅広いIT分野であり、一つの資格試験に限定することは現実的でない。それで、卒業時までに何らかの国家試験または資格試験を取得している学生を90%以上とする。
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

本学科では、多様な目的意識で入学してきており、多数の国家試験・認定試験に対応した授業を実施している。その結果、「入学者数(入学時資格取得希望者数)あたりの資格取得数」は、1.92個である。また1つ以上の国家試験・認定試験に合格した学生(2024年3月卒業)の割合は、92%であり、目標を達成している。

4. 市民公開講座の計画・実 施

- ①各種団体、教育機関、学術団体などが実施している市民公開講座、出前講義、研究会、シンポジウムなどで、講演・ポスター展示などを5回以上行う。
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

市民参加の意見交流会として、「中部エレクトロニクス振興会総会記念講演会(主催:中部エレクトロニクス振興会)」「みえ産学金官 DX 人材マッチングイベント(主催:三重県)」、「健康福祉システム開発研究会(主催:三重大学)」、「みえ産学官連携研究会・第4回ヘルスケア検討会(主催:三重県工業研究所)」「データサイエンス研究会(主催:三重ハイテクフォーラム)」、「Raspberry Pi 勉強会(主催:IEEE Japan)」など6回で、講演または司会などを本学科の教員が担当し、目標を達成した。

重点分野 11: 各学科教育の特色(薬学科)

【基本方針:1】

面倒見の良い、魅力ある大学

【基本方針:5】

医療・福祉の総合大学化の完成と改組

【中期計画】2021年度-2026年度

- 1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善
- 2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み
- 3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導
- 4. 市民公開講座の計画・実施

責任者: 薬学科長

分担者: 大井一弥 (国家試験対策 WG 副委員長)、村田尚久 (大学事務局長)、松永ひとみ (大学事

務局部長)、宮﨑和裕(就職・キャリア支援課長)、松原奈未(教務課長)

事務局:教務課

	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
中期計画 1.						*
中期計画 2.						•
中期計画 3.						-
中期計画 4.						-
中期計画 5.						

2023 年度活動計画

対応する中期計画項目 活動計画内容 ① 学生および保護者の一義的な期待は、留年/休学せずに薬剤 1. 学生および保護者の期待に 師国家試験にストレートで合格することである。授業におい 応えるための教育内容の充 実と教育方法・教授方法の て国家試験と関連づけた内容も盛り込み、復習などでも振り 更なる改善 返り演習などを実施させる。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 国家試験・CBT 対策委員会および薬学教育センターの教員を中 心に目的に向かって邁進して努力している。 ② 低学年(特に1年生)では、学修に必要な情報処理能力(履 修登録、遠隔授業出席、課題提出、SUMSPOやe-ラーニング などの使用について)を身につけているかについて、学生 個々の状況を担任が確認(出席、課題提出などで判別)し、 情報処理の問題による学修の遅れを出来る限り早期に対応 していく。薬学教育センターの役割の明確化、実績の充実化 を目指す。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 国家試験・CBT 対策委員会および薬学教育センターの教員を中 心に目的に向かって邁進して努力している。

③ 低学年(特に1年生)で、学修環境の整備(学修習慣を身に付ける、学修技能の習得、予習復習のためのe-ラーニング等の整備)し、学修成果の確認を定期的に実施する。そのための学生学修支援検討委員会を立ち上げ、方針を立てて、実績を重ねていく。

□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

国家試験・CBT 対策委員会および薬学教育センターの教員を中心に目的に向かって邁進して努力している。

④ 大学教育の中で、医療現場だけでなく社会ニーズに対応できる薬剤師を養成することを目指す。新コアカリキュラムへの対応のためにカリキュラム編成を行う。

□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

令和6年度の新コアカリキュラムの再編に向かって、教務部委員会および新コアカリキュラム検討ワーキンググループの先生方で検討し、概ね、カリキュラムの完成に近づいている。

2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み

① 教育ツールの提供のほか、学生が質問しやすい現場環境作りに取り組む。特に低学年層には、教育ツールを取扱う知識や質問メールの作法などの導入教育(薬学教育だけではなく常識モラルの教育)を実施していく。そのために、教育専門部門である薬学教育センター、学生学修支援検討委員会、教務部委員会との連携を強化していく。

□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

上記の課題については、各論では実施出来ている部分も多いが、総合的には薬学教育センター、学生学修支援検討委員会、教務部委員会との連携が強化されるまでには至っていない。特に、学生学修支援検討委員会はこれから年度末に向けて活動開始の予定でやや遅れ気味である。

② 高学年では、成績下位層に対して各教員が幅広く学修支援を 行い、学力を向上させている。中上位層には、向学心の醸成 とモチベーション維持のため各教員が教育指導を実施して おり、自学自習のためのコンテンツ提供も行っている。それ ぞれのクラス編成をおこない、学修の効果を高めていく。

□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

6年生対象の国家試験対策では学修状況に応じて、クラス編成を行い、成績向上に寄与している。また、5年生については、現在行われている対策をR6年以降の新入学生を対象として単位化することになっている。

3.各資格試験の合格率及び入 学者あたりの合格率の目標 設定とその達成に向けた教 育指導

- 1,2に基づき、学修のためのコンテンツ(学修ツール、授業フォローコンテンツなど)を提供し、知識の定着を図る。特に低学年にはそれらのコンテンツを正しく利用できるよう指導しつつ学修環境を整備し、低学年での学力の底上げを行う。そのために学生学修支援検討委員会を有効的に機能させる。
 - ① 本学の薬剤師国家試験合格者の成績を指標として、4年次 CBT の合格率が 100%、各学生の得点率が 70%以上になる ような教育体制を構築していく。

□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 ①の学生学修支援検討委員会の整備は未達であるが、4年生の対策は功を奏しており、CBTの合格率は100%に近い数字が予想されている。

② 薬剤師国家試験の目標は、ストレート合格率の向上とし、60%を到達点とし、さらに合格率の向上を目指す。

□達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

目標値に向けて6年次学生および教員が努力を進めた。しかしながら本年度は、本格的な相対評価の導入により本学にとって厳しい合格基準となった。加えて国家試験問題の想定範囲を超えた難化に対応できず、46.3%(昨年度:56.9%)のストレート合格率となった。

本結果を踏まえ、次年度の国家試験に向けて、中下位層への学習強化、担任や学年主任による面談を通して各学生に適した学習指導を施し難化する国家試験に対応する。

4. 市民公開講座の計画・実施

一般市民向けの公開講座を毎年、継続的に実施し、大学の魅力を広く発信し続ける。薬学科広報の一環として、企画広報課および入学課との連携を強化する。また、小中高校生への広報や高校訪問も充実させ、入学希望者数の拡大を目指す。

□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

本年度、広報委員会にて10月28日に市民講座(講師:郡山教授、タイトル:知ってなっ得、認知症~認知症研究から予防を考える)を企画して実施した。大学の魅力を発信するため、講座後、学内施設の見学も開催した。220名を超える参加者の多くが見学会にも参加され、大学の設備に大変に興味を持たれたようであった。

重点分野 11:各学科教育の特色(看護学科)

【基本方針:1】

面倒見の良い、魅力ある大学

【基本方針:5】

医療・福祉の総合大学化の完成と改組

【中期計画】2021年度-2026年度

- 1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善
- 2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み
- 3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導
- 4. 市民公開講座の計画・実施

責任者:看護学科長

分担者: 大井一弥 (国家試験対策 WG 副委員長)、村田尚久 (大学事務局長)、松永ひとみ (大学事

務局部長)、宮﨑和裕(就職・キャリア支援課長)、松原奈未(教務課長)

事務局:教務課

	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
中期計画 1.						-
中期計画 2.						-
中期計画 3.						-
中期計画 4.						-
中期計画 5.						

2023 年度活動計画

対応する中期計画項目 活動計画内容 1. 学生および保護者の期待に ①カリキュラム・ポリシーに沿ったカリキュラムマップの活用 応えるための教育内容の充 度を向上させ、学生自身による振り返りを支援し、学びの促進へ の方向づけをする。 実と教育方法・教授方法の 更なる改善 ◆オリエンテーションでの具体的説明・入力時間を設定し、 前・後期での担当学生との面談時に確認する。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 オリエンテーションで説明して、各自記載後に担任教員が確認 している。 ◆これまで何を身につけ、何が課題で、これから何を学んでい くのかを学生が主体的に理解できるようにする。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 ガイダンス内で今後の予定を説明した後に、学生担任教員が学 生各自の設定した今年度目標内容を確認している。また、看護技 術については卒業までの各看護学別の到達リストを各自記載し、 各看護学実習教員が到達内容を確認している。 ②多様なメディア (learning BOX、Google フォーム等) を用 いてアクティブラーニングを推進する。

◆反転授業を取り入れる。

□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

ほぼすべての科目においてアクティブラーニングや反転授業 を取り入れている。

- ◆学生の理解度を高めるため、各回の授業での小テストやリアクションペーパー等を導入し、理解度の確認をする。
- ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

ほぼすべての科目でリアクションペーパー等を用いて学生理 解度を確認している。

③授業評価アンケートに対応し、授業内容の改善を推進する。 ◆アンケート回収率を高める。

各セメスター末には、各科目責任者からアンケート協力を呼 びかける

□達成(100%)ほぼ達成(実行中・80%)■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

各科目担当教員は試験解説時間に授業評価記載を呼びかけているが、回収率は昨年度同様程度である。今後はさらに教員に呼び掛けを多くし学生の記載時間の確保を促していく。

- ◆学生のニーズに応える教育内容と教育方法を具体的に実施 する。次年度のシラバス作成時に具体的な改善を続けている。
- ■達成(100%□ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

各教員は昨年度授業評価を参考にシラバス作成時に具体的な 改善点を記載して、毎年度さらなる継続的改善をめざしている。

- ④「教育の質に係る客観的指標」と看護学科の現状の教育内容 を精査し、必要とされる内容を組み込む。
- ◆「教育の質に係る客観的指標」の内容を精査し、看護学教育 内容との適応状態、不足内容を点検する。

□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

客観的指標として 2022 年度の看護学科各学年別 GPA 点数、各科目の特別教育実施者数と不合格数、留年者数、ならびに 2023 年度実施の卒業生アンケート(対象は卒業生・就職先施設)がある。成績不審者の対応は学力不振学生に対して学生担当教員が学習面と生活面などを含めて個別指導を丁寧に行い、教育質保証委員会で特別教育実施の有無を個別の状況確認を上で判断しているため、学生個々の状況には対応できている。また、卒業生アンケート結果では、本学科のカリキュラムや学習内容に関する質問に 8割強が「満足している」「役立っている」と回答しているため、必要とされている学習内容を含めている。しかし、就職施設から今年度今後の学生が在学中に身につけてほしいこととして「ストレスコントロール力(前回7位→2位)「専門分野の知識・技術(前回5位→3位)となっており、コロナ禍での実践的な学習や経験の不足が考えられるため、今後は各科目においてアクティブラーニングなどをさらに活用をめざしていく。

2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み

①成績不振者への学修支援計画の継続、評価、改善を行う。

◆学科教務委員会、学生委員会、学年担当と担当教員が連携して 成績不振者の学修支援計画を作成する。

前期・後期セメスター開始時には、学生担当教員が学生面談を行い、学修目標の設定とその振り返りを行いながら、学習支援を行う。授業の出席状況や成績に課題がみられる学生に

ついては、教員間で情報共有し、早期に面談をして学修指導、生活指導を行っていく。

■達成(100%)□ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

出席状況や課題提出に指導が必要な場合には科目担当教員から教務委員や学生担当教員に早期に連絡が入る。また、成績不審者学生には教務委員会と教育質保証委員会にて前期・後期の支援体制を検討・決定して、学力不振学生に対して担当教員が学習面と生活面などを含めて個別指導を丁寧に行い、その情報を科目担当教員とも共有しながら、教育質保証委員会で特別教育実施の有無を個別の状況確認の上で判断しているため、学生個々の状況には対応できている。今後も学生個々の状況を把握しながら学修・生活指導を行う。

◆学修支援計画の評価と改善を行う。

特別教育を含め、成績不振者への学習支援の評価を行い、必要に応じて修正をしていく。

□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

成績不振学生には再試前の試験解説時と特別教育実施前の2度 の面談を学生担当と行って、学修状況や生活状況および心理状況 に課題があるかを評価してから特別教育に入っている。特別教育中 には科目担当教員が当該学生に応じた学修支援となるように評価し ながら指導を進めており、その情報は教育質保証委員会や教務委員 会や必要時学生担当も含めてフィードバックされ、次学期へとつなげ ている。

②入学前教育(推薦入試予定者で希望者)とリメディアル教育を 充実させ、入学生の学習能力を向上する。

総合型選抜入試の導入をはじめ、いろいろな入試スタイルで入 学する学生に対して、入学時のプレイスメントテストで高校まで の学習内容習得状況の判断を行い、必要な学生にはリメディアル 教育を勧めていく。リメディアル教育の出席状況についても情報 共有し、担当教員を中心に早期から学修指導を行っていく。

□達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

入学生でリメディアル教育の必要な学生の情報は学生担当教員にも入り、出席状況などの情報共有を行い、必要時に学生担当教員が個別面談にて学修面と生活面の指導を実施している。

3. 各資格試験の合格率及び入 学者あたりの合格率の目標 設定とその達成に向けた教 育指導

看護師国家試験 受験予定者 98 名

2020年度入学生 106 名中 95 名

2019年度入学者2名(過年度生)、既卒者1名

入学者数当たりの合格率目標を90%とし、4年生には定期的なセミナーによる基礎知識及び思考力の定着を図り、模擬試験によって形成評価を行っている。

■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

成績が伸び悩む学生34名と希望者12名計46名を対象に9月に4回にわたる強化セミナーと強化模試を実施した。セミナー受講者の実施後のアンケートで理解や参加の満足度などおおむね肯定的な意見であった。11月からは成績不振学生16名を対象に少人数クラスによるキャッチアップセミナーを実施し、学習状況を担当教員と共有し個別指導に活用している。1月には国試直前セミナーを追加した。学生のメンタル面にも注意し、教員個々が担当学生の国家試験当日までの学習指導とモチベーション維持のための精神的ケアを行った。

結果、過年度生を含む新卒97名、既卒者1名全員が合格し、ス

トレート合格89.6%であった。

1・2 年次の学生に対しては、基礎的な知識の定着の機会として e-lerning による課題学習を実施した。年度末にはセミナー、模擬試験を企画実施した。

保健師国家試験 受験予定者 30 名

国家試験合格率 100%維持を目標とする。

今年度受験者が増えているため、保健師国家試験模試を段階的・定期的に実施し、出題頻度の高い科目について、外部講師による集中セミナーを開講し知識の定着を図る。

■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

9月に実施した模擬試験の結果から学習課題を分析し、受験予定者是認を対象に補講を企画実施した。成績不振者数名は個別面談を行うなど、個別の学習課題に保健師課程の教員が中心となってサポートした。その結果、30名全員が保健師国家試験に合格した。

4. 市民公開講座の計画・実施

①8月5日(土)13:00~14:30 白子キャンパス1号館7階1701教室で市民公開講座を開催する。

テーマは「人生会議をもと身近に~もしバナゲームを使って考えてみよう~」

- ◆感染対策を講じながら、市民公開講座を計画し、実施する。
- ◆本学の取り組みを地域住民に知ってもらうとともに、健康づくり活動に寄与するため、積極的に広報し多くの方に参加してもらう。

■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

8/5 (土) に白子キャンパスで第3回看護学部市民公開講座を開催した。「人生会議をもっと身近に―もしバナゲームを使って考えてみよう」をテーマに、成人看護学教員6名が担当した。辻川教授の説明後、教員がファシリテーターになり、4人1組でカードを使って人生の終わりをどう過ごしたいか考える時間を作った。参加者は44名でアンケートでも好評価を得た。

重点分野 11: 各学科教育の特色(医療科学研究科)

【基本方針:1】

面倒見の良い、魅力ある大学

【基本方針:5】

医療・福祉の総合大学化の完成と改組

【中期計画】2023年度-2026年度

- 1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善
- 2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み
- 3. 学内研究の推進と研究指導
- 4. 広報活動の計画・実施

責任者:太田伸生(医療科学研究科長)

分担者:

事務局:大学院課

	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
中期計画 1.						-
中期計画 2.						-
中期計画 3.						-
中期計画 4.						-
中期計画 5.						

2023 年度活動計画

対応する中期計画項目 活動計画内容 1. 学生および保護者の期待に ①図書館、自習室等の設備の不足、兼任教員を中心とした講義お 応えるための教育内容の充 よび研究指導体制等、教育の質保証の観点から、東京サテライト 実と教育方法・教授方法の コースの学生募集を停止し、順次廃止していく。 更なる改善 ■ 達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 東京サテライトコースは2023年度をもって新規学生募集は停 止し、在学大学院生の修了をもって廃止するとともに、医療科学 研究科の授業に関する認証評価指摘事項を全て改善した。 ②修士課程、博士後期課程の共通科目について、現在、シラバス では共通の内容で行っているため、カリキュラムおよびシラバス を変更する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 2024年度カリキュラムから、修士課程の科目と博士後期課程 の科目の名称を明確に分け、2024年度入学生から適用している。 ③本学の修士課程時に修得した共通選択科目を、博士後期課程修 了要件としての単位読み替えを認める制度について廃止し、博士 後期課程独自の選択科目を設ける。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容

	単位読替えの制度は廃止することの学則変更を行い、博士後期 課程分野共通科目に「医療科学特論」を新規追加し、2024年度 入学生から適用している。
2. 効果的な学習支援と向学心 の高揚への取り組み	①社会人院生が多いため、利便性を考慮し、支障のない範囲で WEB での講義を活用する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 支障のない範囲で Web にて講義を実施した。
3. 学内研究の推進と研究指導	①大学院兼担教員を可能な範囲で増員し、全学的な研究指導体制を強化する。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 全学的な研究指導体制として各種セミナーや共同利用研究機器の充実などを通じて、専攻分野の壁を越えて大学院生の指導を進めている。しかし 2023 年度は大学院兼担教員新規増員は行わなかった。分野によって兼担教員数の増加が必要な状況であるが、そのためには資格を満たす教員の増員が必要であり、各分野に引き続いての努力を要請した。 ②教員の博士学位取得の奨励 □達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) ■遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 兼担教員人事審査においても博士学位未取得教員には努力を促している。本務である学部教育の負担が大きいことも原因であるが、継続して該当教員の自覚を促すことにしている。
4. 広報活動の計画・実施	①学部学生及び社会人、特に本学卒業生の大学院入学の促進を目的とした情報発信等の広報活動を強化する。(同窓会や大学祭を利用して大学院の情報を流すなど情報提供の場を設ける。) ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 2023 年度も大学祭において大学院紹介のブースを開設し、期間中600名を超す来室者があり、大学院の意義を紹介するとともに入学希望がある人への情報提供を行なった。 また、同窓会誌、広報誌へ大学院入試情報を掲載し、卒業生、在学生へのPRを行った。

重点分野 11: 各学科教育の特色 (薬学研究科)

【基本方針:1】

面倒見の良い、魅力ある大学

【基本方針:5】

医療・福祉の総合大学化の完成と改組

【中期計画】2023年度-2026年度

- 1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善
- 2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み
- 3. 学内研究の推進と研究指導
- 4. 広報活動の計画・実施

責任者: 飯田靖彦 (薬学研究科長)

分担者:

事務局:白子教務課

	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
中期計画 1.						-
中期計画 2.			-			-
中期計画 3.						-
中期計画 4.						-
中期計画 5.						

2023 年度活動計画

対応する中期計画項目	活動計画内容				
1. 学生および保護者の期待に 応えるための教育内容の充 実と教育方法・教授方法の 更なる改善	薬学研究科設置 10 年となり、各教員の研究・教育内容も推移すると考えられることから、現行の教育課程を見直すと共に、現状に合わせて科目名称を変更する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 全教員に研究・教育内容を再点検し、現状に合わせて修正していただくよう周知し、既に大学院案内、募集要項でも変更済みとなっている。今後も引き続き点検を継続し、必要な修正を加えていく。				
2. 効果的な学習支援と向学心 の高揚への取り組み	兼担教員の増員により複数指導体制のさらなる充実を図ると共に、高度専門教育科目を新設し、学生のニーズに合った教育を実践する。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 23 年度に 4 名の兼担教員を増員し、適切な研究指導体制の構築を進めている。今回の増員に伴い、24 年度から新たに高度専門教育科目を 4 科目開講した。				

3. 学内研究の推進と研究指導 若手教員を配置することで研究の活性化を図る。また内部進学者 を中心に大学院生を増やすことで若手研究者の育成に努める。 □達成(100%) ■ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 上記の兼担教員の内訳は准教授1名、助教3名であり、若手教 員の充実による研究の活性化を進めている。また本研究科の修了 生1名が今年度から助手として本学で研究を開始している。さら に大学院生の定員充足に向けて、本学薬学科学生への周知活動を 計画している。 4. 広報活動の計画・実施 薬学部同窓会や大学祭などを利用し、教育課程の刷新、科目の新 設などを内外に伝える。 ■達成(100%) □ほぼ達成(実行中・80%) □遅れ有(50%) □大幅な遅れ有(30%未満) 上記達成状況の具体的内容 大学祭にて大学院のブースを設け、主に高校生、大学生、社会 人に向けて研究内容、教育課程などを紹介し、2日間で約600 名の来場者を得た。また同窓会会報誌に本学大学院入試について 掲載し、卒業生へ PR を行うとともに、今年度の薬学部同窓会に

報活動に努めた。

おいて大学院紹介の記事、社会人大学生の手記などを配布し、広